米國海上法　第三卷

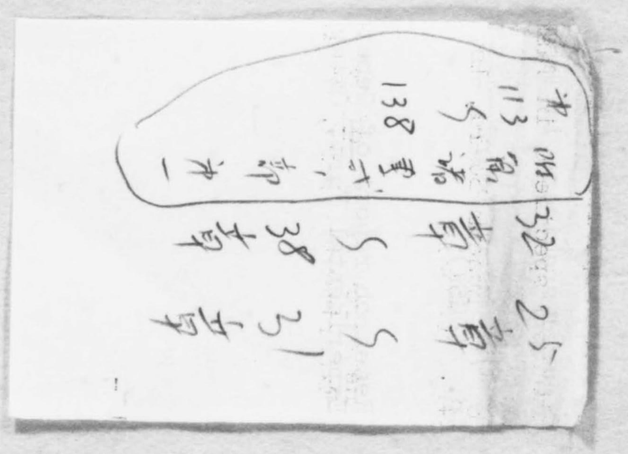
寫本
米國海上法
第八百八十八號
第十三
甲四冊ノ内

第六號
第一架
第七

司法省
四ノ第三六號
寄贈圖書文庫

B 853
S 1
5-1C

B851
S1-5
1C


本 1968 32 25
113 四九
138 三十
十四
本一
十三
38 31
十四 十四

國立國會圖書館藏

司法省記錄文庫
保
第八百八十八號
十三冊ノ内

本國海上法

自第弐十九章
至第三十一章

司法省

B 853
S 1
5-1C

○第二十五章　令状ノ後命及ヒ懈怠及ヒ出廷ノ事

允ソ令状ノ後命期日ヲ以テ裁判所ヲ滞キタル場合ニ於テハ「マルシャル」ハ令状ヲ書記ニ還付シ判事ハ被告人ヲ召喚スヘキ命令ヲ下スヘキモノトス但シ原告人ノ代言人ハ通常後命期日ヲ以テ現ニ裁判所ニ出頭セサル可カラス

旧時被告人ヲ召喚スルニ三期日ヲ定メ若シ出廷セサルトキハ三回ノ懈怠タルヲ登記スヘキヿトセリ然レモ実際ニ在テハ最終ノ期日マテハ被告人ノ出廷ヲ要セサリシ慣例ナリシト蚤現今ニ至テハ此法ハ到底費用ト延滞ヲ生スルノミニテ毫モ便益ヲ與ヘサルモノトシテ遂ニ亜米利加裁判所ニ在テハ全ク之ヲ実施セサルニ至レリ

現今ハ訴訟人権ニ係ルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ被告人ヲ召喚シ若シ被告人自身又ハ代言人出廷セサルトキハ裁判所ハ原告代言人ノ請求ニ従ヒ違令及ヒ懈怠タル旨ヲ被告人ニ言渡シ且ツ其訴訟ハ被告人ノ曲タルモノト認定シ而シテ原告一方ヲ審問シ法律及ヒ条理ニ従テ之カ判決ヲ下スノ法タリ但シ此一方審理ハ被告人ノ欠席ノ日又ハ裁判所ノ指定シタル其後ノ期日ヲ以テ行フヘキモノトス

又原告ノ請求直タルヘキ認定ヲ受ケタル場合ニ於テ其関係者ノ審問ヲ委負ニ托シ而シテ其結果ヲ裁判所ニ報告セシムルノ法ハ通常行ハル

ル所トス（海上裁判所規則第二十九条及ヒ第四十四条ヲ参照スヘシ）

前上所謂裁判所ノ命令ハ左ノ書式ニ従フヘシ

此訴訟上発行シタル令状ハ親ク送致ヲ行ヒタル旨復命アリシヲ以テ正当ニ被告人ヲ召喚シタリト雖モ被告人出廷セサルヲ以テ原告代言人何ノ誰ノ請求ニ従ヒ該被告人ハ違令及ヒ懈怠ノ罪アルヘキ言渡ヲ受ケ且ツ此訴訟ハ被告人ノ曲タルモノト認定セラレタリ故ニ原告人ニ償却スヘキ金額ヲ算定シ速ニ之ノ裁判所ニ報告セシムル為メ委負何ノ誰ニ之ヲ委任スルモノナリ

前上違令及ヒ懈怠ノ言渡アリタル後被告人ハ其訴訟本案ノ審問判決アルマテ何時ヲ問ハス裁判所ニ向テ其懈怠ノ言渡ヲ取消シ而メ更ニ裁判所ニ出頭ノ上原告ノ請求ヲ答弁スヘキノ允可ヲ請フヲ得ヘシ此時ニ当リ裁判所ハ随意ニ之ヲ許可シ而メ其費用ニ就キ相当ノ期約ヲ定メ且ツ之ヲ請求スルマテニ生シタル訴訟入費ヲ総テ償却セシムルヲアルヘシ

今最上裁判所ノ海上裁判規則ニ依テ見レハ前上ノ場合ニ於テハ其訴訟費用ノ金額ヲ償却セシムルカ如シト雖モ自由公平ヲ遵守スヘキ海上裁判所ニ於テ豈此ノ如キ過酷ノ法ヲ施スヘケンヤ然レモ実際止ムヲ得サル事情アリテ之

ヲ施スヲ要シ而シテ裁判所ハ隨意ニナル文字ニ依テ之ヲ使用スルヲ相当トシ毫モ邪悪ノ念ナキ場合ニ於テハ之ヲ使用スルモ固ヨリ妨ケナシトス但シ裁判所ノ意見ヲ施スニ当テハ須ク被告人ノ誓昏又ハ其他ノ証拠ニ依リ其請求ヲ起シタル理由如何ヲ認定スルヲ必要トス（海上裁判所規則第二十九条ヲ参照スヘシ）

前上ノ如ク被告人ノ請願ニ依テ裁判所ノ意見ヲ施シ而シテ被告人裁判所ノ指定シタル費用ヲ納付シ及ヒ命令期約ヲ遵奉シタル上ハ違令及ヒ懈怠ノ判決ヲ取消シ更ニ被告人ノ出廷ヲ允可シ而シテ其判決ヲ記入シタル後十日以内何時ヲ問ハス再審ヲ行フヘキ許可ヲ与フヘシ（海上

裁判所規則第四十条ヲ参照スヘシ）

（附言）前上所謂事実ニ係ル誓昏ノ謄本ハ裁判所ノ規則ニ依テ取消願ヲ起スヘキノ通知状ト倶ニ之ヲ對手方代言人ニ送達スヘキモノトス

若シ訴訟物権ニ係ルトキハ原告代言人ノ請求ニ従ヒ其原告人ノ請求ニ應シ物件ノ賣却ヲ為スニ就キ異議ヲ容レントスル各人ニ対シ出頭ノ上之ヲ申立ツヘキ旨ノ告知ヲ與フルモノトス此告知ヲ為シタル場合ニ於テ一人トシテ出頭スル者ナキヲ以テ原告代言人ノ請求ニ従ヒ右諸人ノ懈怠ヲ登記シタル時ニ当テハ原告代言人ノ簡畧ナル申立昏ニ依リ物件ノ賣却ニ関ス

ル判決ヲ下シ同時若クハ後日ヲ以テ原告一方ノ審問ヲ行ヒ而ノ本案ノ判決ヲ下シ或ハ原告請求ノ金額ヲ認定スル為メ之ヲ委員ニ附シテ其結果ヲ裁判所ニ報告セシムルヿヲ得ヘシ（海上裁判所規則第四十四条ヲ参照スヘシ）

左ニ掲ケタルモノハ即チ命令書ノ命令書ト書式ナリトス

茲ニ「マルシヤル」ハ「シーボルト」号及ビ其船具什器ヲ正当ニ差押ヘ而ノ此物件ニ就キ請求ヲ為スヘキ各人ニ対シ当裁判所ハ今日ヲ以テ此事件ノ審問ニ着手スヘキヿヲ報知シタル旨ヲ後命シ即チ訴訟ハ勧解ニ帰セサルカ故ニ原告代言人ノ請求ニ従ヒ更ニ右原告ノ請求ニ応シ談物件ノ売却ヲ為スニ就キ異議ヲ容レントスル各人ニ対シ出頭スヘキノ告知ヲ為シタリ然ルニ一人トシテ出頭スル者ナキカ故ニ同上ノ請求ニ従ヒ裁判所ハ右各人ノ懈怠ヲ記入シ而ノ原告ノ請求ニ應スル為メ談船舶船具等ヲ売却スルヿト売却令状ヲ発行スヘキヿヲ許可スルモノナリ

此他裁判所ハ同上ノ請求ニ従ヒ原告人ニ償却スヘキ金額ヲ認定シ之ヲ速ニ裁判所ニ報告セシムル為メ委員何ノ誰ニ委任スヘキヿヲ命スルモノナリ

○若シ一訴訟ヲ以テ数名ノ被告人或ハ数箇ノ物件ヲ訴ヘタル場合ニ於テ甲ハ懈怠ノ言渡ヲ受ケ乙ハ裁判所ヘ出頭シタルトキニ当リ仮令ヒ甲ノ懈怠確定シテ其者ノ為メ不利ノ判決及ヒ執行状ヲ下スモ其出廷者ノ為メニハ毫モ其害ヲ及スコトヲ得サルノミナラス欠席者ノ為メニハ懈怠ノ所為ニ依リ既ニ確定事件ト為リタル事実ヲ更ニ弁論スルヿ隨意ナリトス

○凡ソ損害若クハ不定ノ賠償或ハ法律上ノ疑点ヲ判定スルニ当リ裁判所ニ於テ実際上ノ審査ニ附シテ其如何ヲ報告セシムルヲ可トスル ノ際之ヲ委員ニ任スルハ裁判所ノ通則ナラスト雖モ此ノ如キ場合ニ於テ之ヲ委審ニ附スルハ法律上敢テ妨ケサル所ナルカ故ニ実際ニ在テハ時トシテ之ヲ行フ事アルナリ

前上委審委員ハ恰モ「チャンセリー」廳ニ於テ之ヲ命スルニ当リ訟廳ノ「マスタル」ニ於テ有スルト同一ノ諸権ヲ行ヒ而メ宣誓ヲ認メ及ヒ関係者証人等ヲ審問スルヿヲ得ヘシ

嚮キニ数多ノ類似裁判事務ヲ執行スヘキ委員ノ命任法ニ就キ議院ニ於テ決議セシ所アルヲ以テ委審ノ場合ニ於テハ総テ此等ノ事務ニ熟練シタル者ト看做シテ訟委員ニ任スルヲ通則トスレトモ関係者ニ於テ選定シ或ハ特別ノ場合ニ於テハ裁判所ニ於テ選任シタル一名若クハ数名ノ委員ニ附シテ委審ヲ行ハシムルモ妨ケ

ナシトス（海上裁判所規則第四十四条）

○巡捕事件ノ場合ニ於テハ争論ノ目ク物件ヲ差押ヘタルト否トニ関係スルカ故ニ若シ一人モ出廷セサルトキハ曲者タル判決ハ直チニ確定スヘキモノトス

此ノ如キ場合ニ於テ郡代言人ハ出頭ノ上簡短ニ訴訟ノ事由及ヒ差押ヒ原因ヲ陳述スルヿヲ得ヘシ

○凡ソ令状ノ徴命期日若クハ其他ノ期日ニ於テ裁判所ノ法則及ヒ命令ニ従ヒ訴訟ノ手続ヲ為スハ即チ原告人ノ職分トス故ニ若シ原告人此処分ヲ怠リ被告人出廷シタルトキハ裁判所ハ被告人ノ情願ニ依リ原告人ヲ呼出スヘキ命令ヲ下スヿヲ得ヘシ此時ニ当リ原告人出廷セサルトキハ徴タ被告人ノ情願ニ依リ原告人ニ対シ懈怠及ヒ違令ノ判決ヲ下シ而ノ其訴訟ヲ棄却スヘキ言渡ヲ為シ且ツ其訴訟入費ヲ擔当セシムルヿヲ得ヘシ（海上裁判所規則第三十九条参照）

今最上裁判所ノ海上裁判規則ニ依レハ被告人懈怠ノ場合ト等ク原告人ノ懈怠ヲ取消スヘキ権力ノ如何ニ就テハ毫モ明言セスト雖モ裁判所ノ規則若クハ順序ニ適ハサル懈怠ノ言渡ヲ取消サントスルニハ須ク相当ノ時間ニ出頭スルニ於テハ裁判所ノ権力ヲ以テ之ヲ取消スヿヲ得ルハ毫モ疑ヲ容ルヽニ足ラサルナリ

B870 6 C 18

然リト雖モ此ニ依テ下シタル正当ノ判決ヲ取消スヘキ権力ニ至テハ仮令ヒ其判決ハ懈怠ニ基クモ之ヲ施行スルヿヲ得サルカ如シ是レ今日ニ在テ規則第二十九条及ヒ第四十条ノ設ケアル所以ナリ

左ニ記載スル所ノモノハ即チ前上ノ場合ニ於テ発スヘキ命令昏ノ昏式ナリ

原告人ハ此訴訟ニ就キ出廷シ而シテ裁判所ノ法則及ヒ命令ニ従ヒ其訴訟ヲ申立ルヿヲ怠リタルカ故ニ被告代言人何ノ誰ノ情願ニ依リ此訴訟ヲ棄却シ而シテ訴訟費用ヲ擔当セシムルモノナリ

允ソ令状ノ後命期日ヲ以テ原告人出廷シ而シテ

通常ノ公告ヲ行フタルトキハ被告人ハ之ニ應シテ出廷シ若シ人権ノ訴訟ニ係ルトキハ答弁昏ヲ差出シ若シ又物権ノ訴訟ニ係ルトキハ反対申立昏ヲ差出シ或ハ情願ニ依テハ裁判所ニ対シテ猶豫ノ期限ヲ請フヿヲ得ヘシ

人権ノ訴訟ニ於テハ被告人ハ往々逮捕セラルヽヿアリト雖モ其時間僅ニ令状ノ後命期日ノ数日前ニ限レリ故ニ被告人ニ訴状ノ謄本ヲ交付シ及ヒ其申立ヲ聴キ及ヒ其答弁昏ヲ作ルヘキ為メ相当ノ期限ヲ与フルハ亦通常ノ事トス但シ右申立ヲ聴クニハ裁判所ニ於テ充分ノ期限ヲ与フルト雖モ通常海上訴訟ニ在テハ代言人ニ於テ須要ナル弁駁ヲ加フルヿ殆ント稀有ナ

リ

新約克南部地方ニ於テハ代言人ニ対シ出廷通知ヲ送ルノ規則ナシトス故ニ裁判所開廷中ニ在テハ被告代言人ハ口述ヲ以テ被告人ニ代テ出廷而シテ被告答弁書ヲ差出シ或ハ之ヲ差出スヲ為メ相当ノ猶豫ヲ請フヘキヿヲ申立ルヲ以テ慣例トス

然レトモ猶ホ一層正当ノ慣例トスル所ハ即チ被告代言人ヲシテ被告人ニ代テ出廷シタルノ通知書ヲ書記ニ対シテ差出サシムル事是レナリ又裁判所ノ書類ハ通常被告人ノ代人タル者ノ点見ニ供スルヿヲ得ヘシ最上裁判所ノ規則中前上通知書ノ事ヲ明示セリ左ニ記載スル所ノモノハ即チ通知書ノ書式ナリトス（海上裁判所規則第二十九条参照）

司法省

郡裁判所海上裁判部ニ於テ

ウサリヤムプラットヨリ「ジョン、ジョーン」ス外数名ニ係ル訴訟

此訴訟ニ就キ被告代言人トシテ余ノ出廷ヲ登記セラレンヿヲ請願ス

一千八百四十九年六月二日

代言人　何ノ誰

書記何ノ誰殿

○物権ノ訴訟ニ於テ発スヘキ令状ハ通常後命期日ヨリ十四日以前ニ送達スヘキモノトス然レトモ何ナル場合ヲ問ハス答弁ノ為メニ猶豫ノ

期限ヲ与フルハ実際ニ於テ稀レナル所ナリ

若シ又止ムヲ得サル場合ニ当テハ裁判所ニ於テ猶豫ノ期限ヲ与ヘ而ヲ此ノ如キ場合ニ於テハ通常其猶豫ノ期限ヲ与フルノ命令ト若シ其期限内ニ答弁書ヲ差出サヽルトキハ被告人ハ違令懈怠ノ罪者タルヘキ命令トヲ合セ発スヘキモノトス

凡ソ訴訟ヲ答弁スヘキ猶豫ノ期限ハ実際ニ在テハ令状後命期日ヲ延期スルニ異ナラサルヤ

リ但シ猶豫ノ期日ニ在テハ被告人準備ヲ整ヘタルトキハ現ニ令状後命期日ニ行フヘキ所ト同一ノ処置ヲ行フヘキモノトス

（附言）前上ノ通知書ハ書記及ヒ原告代言人ニ送達シ而ヲ被告人ハ其答弁書及ヒ申立書或ハ異議ノ申立書ヲ作ルヘシ且ツ令状ノ後命期日或ハ其已前ニ保証書ト供ニ之ヲ差出スカ又ハ同時ニ裁判所ヘ出頭シ更ニ猶豫ノ期限ヲ請フヘキモノトス

司法省

○凡ソ原被共ニ出廷シタルトキハ其以前ニ係ル訴訟手続ニ関スル諸般ノ故障ヲ消滅セシムル

ヲ通則トスレトモ保証書ヲ記シ及ヒ答弁書ヲ差出サヽル間ハ猶ホ之ヲ主張スルヿヲ得ヘキモノトス

故ニ若シ訴訟法式ニ関スル疑問ヲ裁判所ニ提出セントスルトキハ須ク出廷ノ法式ノ備ハラサ

ル以前ニ提出スヘキモノトス

又往古ノ慣例ニ依レハ代言人ハ其依頼人ヲシテ委任状若クハ命任辞ヲ差出サシムルモノトス為レタリ然レモ今日ニ至テハ此法則ハ全ク廃棄セラレタリ

現今ノ慣例ニ依レハ凡ソ二百年以来委任状ハ廃棄セラレ代言人ハ之ヲ差出サスシテ全ク自己ノ責任ヲ以テ訴訟ヲ始メ或ハ之ヲ拒ムヿ隨意ナリトス

然リト雖モ代言人ハ若シ裁判所ニ於テ召喚ヤラレタルトキハ其訴訟本人ヲ裁判所ニ出頭セシムヘキ義務アリ且ツ訴訟本人ニ代テ出頭スヘキノ委任ヲ受ケンヿヲ請求スヘキモノトス

司法省

○監財人ノ事○監財人又ハ物件ヲ保管スル者ニ於テ召喚状ノ送達ヲ受ケタルトキハ本人自身若クハ代言人ヲシテ其召喚状ノ後命期日ニ出頭セシメ宣誓ノ上現ニ已レノ手ニアル被告人ノ財産及ヒ権利入額ノ事ニ関スル答弁書及ヒ右物件ニ関シテ原告人ノ提出シタル質問ニ対スル答弁書ヲ差出スヘキモノトス但シ此質問書ハ監財人出廷ノ後ハ訴状ニ添ヘ置キ或ハ別ニ之ヲ備ヘ置キ而メ答弁書ト倶ニ保存スヘキモノトス

若シ又前上ノ場合ニ於テ答弁スヘキヿヲ肯ンセス或ハ怠ルトキハ裁判所ハ人権ノ訴訟ニ関スル令状ヲ其者ニ対シテ発スルヿヲ得ヘシ

若シ又義務権利アリト認メタルキハ其者ヲシテ之ヲ保存セシメ而シテ其者ハ其訴訟ノ要点ヲ答弁スヘキ責任アルモノトス

又裁判所ニ於テ判決アリタルキハ現ニ其保管シタル財産ヲ以テ原告人ノ請求ヲ尽スヘキ責任アリトス

若シ監財人ニ於テ義務権利ナシト申立タルキハ他ノ場合ト等ク裁判所ニ於テ之ヲ判決スヘキモノトス（海上裁判所規則第三十七条参照）

又第三ノ人ノ財産ヲ差押ヘタル場合ニ在テ其財産保護ノ為メニハ監財人ハ訴訟ニ参与スルヲ得ヘシ

○通常ノ訴訟ニ於テ被告人自ラ令状ノ送達ヲ受ケサルモ其出廷ヲ促ス為メ其財産ヲ差押ヘラレタルキハ恰モ本人自ラ之ヲ受ケタル場合ト同一ノ方法ヲ以テ召喚セラレ若シ出廷セサルキハ違令及ヒ懈怠ノ言渡ヲ受ケ且ツ其訴訟本案ニ就テハ曲者タルノ判決ヲ下シ而シテ他ノ場合ト同一ノ方法ヲ以テ金額ヲ算定シ且ツ判決ヲ完了セラルヘシ

又通常被告人及ヒ其財産ニ対シ且ツ監財人ノ手ニ現存スル被告人ノ財産ニ對シテ執行状ヲ発スルヲ得ヘシ若シ監財人訣犯行状ニ應シテ其財産ヲ引渡スヲ肯ンセサルキハ監財人ノ身体財産ニ対シ右犯行状ニ記載シタル金額或ハ其監財人ノ保管シタル財産ノ高ニ相当ス

ヘキ執行状ヲ発スルヿヲ得ヘシ（海上裁判所規則第三十四条ヲ参照スヘシ）

凡ソ物権ノ訴訟ニ於テハ何人ト雖モ訴訟ニ干与スルヿヲ許サス但シ証人ヲ具ヘタル保証書ヲ以テ其事件ノ判決ヲ遵奉シ且ツ始審終審ヲ論セス総テ裁判所ノ判決ニ従ヒ諸般ノ費用及ヒ損害ノ賠償ヲ償還スヘキヿヲ証シタルトキハ格別ナリトス

実際ニ於テハ反対申立書及ヒ答弁書ヲ提出スヘキ為メ定メタル期日ニ至ルマテハ保証書ヲ差出サヽルモ妨ケナシト雖モ保証ヲ出シタル上ニアラサレハ何人ト雖モ猶豫ヲ求メ或ハ原告ヲシテ費用ヲ増加セシムルノ許可ヲ受ルヿヲ得ス

又仮令関係者出廷スルモ其反対申立書或ハ答弁書及ヒ保証書ヲ提出シタル上ニアラサレハ裁判所ニ於テ其者ノ出廷ヲ認可セサルモノトス

○第二十六章　起訴後ノ弁論ノ事

○被告人ノ部分ニ属スル弁論書ハ即チ請求書異議ノ申立書及ヒ答弁書ノ三種トス

○請求書ノ事

夫レ請求書ハ物権ニ関スル訴訟上所有権ニ係ル請求ヲ為スヘキ場合ニ限レリトス而メ之ヲ為ス者ハ裁判所ノ令状ニ依テ差押ヘタル物件ニ対シ如何ナル権利ヲ有スルヤヲ正当ノ法式

ニ従フ記載スヘキモノトス

既ニ前ニ論述シタル如ク物権ノ訴訟上差押ヘタル物件ニ対シ利益ヲ有スル者ハ何人ト雖モ其訴訟ノ判決ヲ遵奉スヘキ義務アリ且ツ自ラ其訴訟関係者ト為リテ己レノ利益ヲ弁護スヘキ権利アルカ故ニ苟モ差押物件ニ対シ差押権ヲ有スル者ハ何人ヲ問ハス其訴訟ニ参与スルヿヲ得ヘシ是レ蓋シ海上差押権ハ所有権上ノ関係アル一種ノモノナレハナリ

此ノ如ク訴訟ニ参与セシ各人ハ先ツ最初ニ其物件ニ対シ請求ヲ為スヘキ義務即チ詳言スレハ其物件ニ対スル利益ノ如何ヲ陳述スヘキ義務アルモノトス此申立ニ依テ裁判所及ヒ原告人ハ果シテ其者ニ於テ其訴訟ヲ答弁スヘキ権利アルヤ又其権利ノ程度ヲ認知スルヿヲ得ヘシ蓋シ此事タル裁判上頗ル有益ナルモノナリ何トナレハ毫モ関係ナキ者ヲシテ妄リニ其訴訟ニ干渉セシムルトキハ恰モ被告人各自ノ名ヲ以テ答弁ヲ許サヽル場合ニ当リ一人ノ名ヲ以テ他ノ被告人ノ権利ヲ害スルト等ク亦原告人ノ権利ヲ妨害スルニ至レハナリ

所謂請求昏ニハ差押物件ニ関係アル者ノ権利アル所以ヲ明記スルノミニテ更ニ他ノ事由ヲ掲載スルヲ要セス即チ其訴訟ニ参与シ之ヲ答弁シ且ツ物件ヲ提出セシムヘキ権利ヲ証明スルヲ以テ足レリトス（海上裁判所規則第二十六

条ヲ参照スヘシ

又請求書ヲ効アラシムルニハ文字及ヒ行文ノ法式ヲ要セス裁判所ニ於テハ他ノ弁論書ト等ク法式如何ニ揭ハラス全ク事実ニ注意スヘキモノトス

故ニ請求書ニハ其請求者ハ果シテ其物件ノ利益ニ就キ真正ナル所有主ニシテ決シテ他ニ其所有者ナキ旨ヲ記載セサルヘカラス又其者若ク ハ其代理人或ハ受托人ノ宣誓ヲ以テ之ヲ証サルヘカラス

若シ代理人若クハ受托人ノ宣誓ヲ以テ之ヲ証シタルトキハ所有者本人ヨリ之ヲ証スヘキ委任ヲ受ケタル旨ヲ併セテ誓ハサルヘカラス又差

押ノ当時現ニ船長ニ於テ物件ヲ占有シタルトキハ其者ハ其物主ニ代ルヘキ受托人タル旨ヲ誓ハサルヘカラス

又請求者請求書ヲ提出シ而メ弁論試ミタルモ到底不当ニシテ遂ニ其権利ナシトセラレタル場合ニ在テハ原告人ニ於テ莫大ノ費用ヲ被ムルカ故ニ請求書ヲ差出ス時ニ当リ相当ノ証人ヲ具ヘタル保証書ヲ進呈シ他日裁判所又ハ上訴ノ場合ニ於テハ上訴裁判所ニ於テ下スヘキ判決ヲ以テ命スル所ノ諸般ノ費用ヲ償却スヘキ保証ヲ為スヘキモノトス

新約克南部地方ニ在テハ現ニ費用ニ関スル保証金額ハ即チ二百五十弗ト為セリ但シ止ムヿ

ヲ得サル事由アリテ出願スルトキハ裁判所ニ於テ更ニ之ヲ増額スルヿヲ得ヘシ（海上裁判所規則第二十六条ヲ参照スヘシ）

左ニ記載スル所ノモノハ即チ請求ノ書式ナリトス

請求書ノ式

新約克南部地方ニ設置シタル合衆国郡裁判所判事「ザミユール、アル、ベッツ」貴下

「スクウ子ル」形「ボル子ツト」号及ヒ其船具什器ノ所有者タル「ソーン」州「ウアシントン」郡「イーストポルト」地名住「ダビツト、ローム」及ヒ「ウヰリヤム、ビー、キング」ハ右「ボル子ツト」号及ヒ其船具什器ニ関係ヲ有スル者ナルカ故ニ今貴廳ニ出頭シ而ノ右船舶及ヒ其船具什器ニ對シ請求ヲ為シ且ツ其真正ノ所有主ニシテ他ニ此所有者ナキ旨ヲ申立タリ

故ニ右請求者ハ貴廳ニ於テ右物件ヲ返還スヘキ判決ヲ與ヘ且ツ此他正当ノ条理ニ従ヒ至当ノ判決ヲ与ヘラレンヿヲ請願スルモノナリ

ダビツト、ローム

ウヰリヤムビー・キング

一千八百四十七年七月十日余ノ面前ニ於テ誓言スルモノナリ

合衆国委員

司法省

ジョーデ、ダブリウ、モルトン

代言人ダブリウ、アル、ビーブ

此旨面ハ令狀ノ後命ヲ待タス直チニ差出スヿヲ得ヘシ（海上裁判所規則第二十六条ヲ参照スヘシ）

○請求者各別ニ利益ヲ異ニスルトキハ各別ニ出廷シ而ノ各別ニ請求ヲ差出スヘキモノトス

凡ソ船舶ノ株主積荷ノ所有者、政府（租税或ハ没收ニ係ル場合）保険人（物件ヲ保険ニ附シタリトノ信用ヲ起スヘキ理由アル時ニ限ル）質取主（船舶ニ関スル訴訟已レノ差押権ニ影響ヲ与フルトキ）外国領事（其国ノ人民ノ関係アリト信スヘキ理由アル時ノ）ノ如キ各人或ハ官吏ハ裁判所ニ於テ之ヲ召喚セサレハ裁判ヲ行フ能ハサルト思料スル時ニアラサレハ訴訟ニ参与シ而ノ其請求ヲ為スヘキ允可ヲ与ヘサルモノトス

然レトモ通常代理権ヲ名トシ出廷シタル各人若クハ官吏ハ先ツ其本人ノ権利及ヘ其本人ニ代ルヘキ代理人ノ権利ノ如何ヲ裁判所ニ証明シタル上ニアラサレハ判決ヲ以テ確定シタル物件若クハ金額ヲ受取ルヿヲ得サルモノトス（附録先例ノ部ヲ参照スヘシ）

○一箇ノ船舶若クハ物件ニ対シ数箇ノ訴訟アリタル場合ニ於テ請求者ハ一訴訟毎ニ請求旨ヲ差出サヽルヘカラス又各訴訟原告人ハ互ニ請求旨ヲ差出スヿヲ得ルモノトス然レトモ其中

ノ一訴訟ニ於テ懈怠ニ因リ曲者ニ帰シ而メ公
賣ノ判決ヲ受ケタリト雖モ苟モ相当ノ権力ナ
クンハ他ノ原告人ニ當セス其物件ヲ賣却スル
コトヲ得ス
又場合ニ依テハ数箇ノ訴訟ヲ併合スルコトヲ得
ルシ
又請求書ヲ差出シタルノミニテハ未タ原告ノ
請求ニ對シタル答弁ヲ尽シタトモノトセス然レ
ドモ原告人ノ請求果シテ正当ニ帰スルマテハ通
常請求者ニ於テ物件ヲ自己ノ所属トスルコトヲ
得ヘシ是レ実際往々原告ノ請求却テ物件ノ所
有主タル及對者ノ直ト為ルコトアレハナリ
又請求書ヲ差出シ而メ其請求者ニ於テ已レノ
利益ニ関シテ審問ヲ受クヘキ権利ヲ得タル上
ハ裁判所及ヒ相手方ヲシテ其弁論ノ理由如何
ヲ認知セシムヘキ為メ相当ノ書面ヲ以テ其理
由ヲ裁判所ニ申立サルヘカラス
前上所謂書類ハ答弁書ト各別若クハ一同ニ差
出スコトヲ得ヘシ若シ原告ニ於テ別段答弁書ヲ
請求セサル時ハ被告人ハ之ヲ差出スニ及ハス
即チ被告人ハ訴状ニ記載シタル事実ヲ答弁ス
ルヲ要セス
然レドモ若シ原告ニ於テ之ヲ請求シタル時ハ其
答弁ヲ為スヘキ各人ハ其答弁ノ理由ヲ裁判所
ヘ申立テ或ハ之ヲ拒ムヘキモノトス是レ畢竟
海上裁判所ニ在テハ申立書及ヒ証拠書類ニ依

テ訴訟ヲ審理判決スヘキ原則アレハナリ海上裁判所規則第三十四条ヲ参照スヘシ

○異議ノ申立書ノ事

凡ソ弁論書或ハ其他ノ手続不正、不完全或ハ不服ナル場合ニ於テ裁判所ニ其故障ヲ申立ルノ方法ハ即チ異議若クハ異議ノ申立書ヲ以テ之ヲ為スヘキモノトス但シ其目的及ヒ効力ハ恰モ慣例法ニ所謂特別弁論書ト同一ニシテ仍ホ之ヲ弁論書ノ一種ナリトス

故ニ訴状、答弁書駁書質問書或ハ應答書或ハ書記若クハ委員會計検査員或ハ輔佐人ノ報告書(委審ヲ行フタル場合)ニ対シ異議ノ申立ヲ為スヘキ場合ニ於テハ即チ之ヲ申立ルヿヲ得ヘシ若シ之ヲ申立サルキハ裁判所ニ於テ其方式ニ違フタルヤ否ヲ注目スヘキモノトス然レモ裁判所ハ書式ニ就テハ隨意ニ之ヲ定ムルヿヲ得ヘキカ故ニ仮令ヒ違背スルモ強テ啄ヲ容ルヽヲ要セス畢ニ書式ニ係ル異議ハ答弁書ヲ出ス以前又ハ同時或ハ異議ナキモノト認定セラルル以前ニ之ヲ為スヘキモノトス

左ニ記載スル所ノモノハ即チ異議ノ申立書ノ書式ナリトス

異議申立書

何々裁判所判事何ノ誰貴下

被告人「ガビットジョーンス」ハ原告人「ゼーム スジャクソン」ノ訴状ハ法式ニ背キ且ツ不完

全ナル異議ヲ申立ルヿ左ノ如シ

第一　訴訟状ハ原告人ニ於テ記名セサルノミナラス其代言人モ亦記名セサル事

第二　訴訟状ニハ原告人ニ於テ損害ヲ被リタルヿヲ記載セサルノミナラス原告人ヨリ被告人ニ対シ貸渡シタル金額ノ如何ニ就キ毫モ申立テサル事

第三　訴状第三条ニハ讒謗且ツ無関係ノ事ヲ記載シタル事

被告代言人　何ノ誰

司法省

○原告ノ訴状ニ依リ其原告人ハ其請求ノ権ナキヿ或ハ裁判所ハ之ヲ判決スルノ権ナキヿ判然タル場合ニ於テハ被告人ハ訴状ニ記シタル事実ヲ答弁スルニ代ヘ其訴状ニ對シ異議ヲ為シ而シテ原告ノ申立ヲ否認スル所以ヲ申立ルヿヲ得ヘシ又或ハ被告人ニ於テ原告ノ請求ノ妨害ト為ルヘキモノトシテ申立テントスル事実即チ既ニ判決ヲ経タルヿ或ハ義務ノ釋放ヲ受ケタルヿ或ハ既ニ兼諾アルヿ或ハ既ニ差押ヲ受ケタルヿアルヿキハ之ヲ申立ツヘキモノトス

然レモ実際ニ於テハ此法則ヲ適用スルヿ少ナシトスト何トナレハ被告人ハ其答弁書ヲ以テ此

等ノ事件ヲ申立テ而シテ異議ノ申立ト同一ノ便益ヲ得レハナリ彼今ヒ答弁書中ニ之ヲ申立テサルモ通常ノ訴拠ニ依テ答弁ヲ為スヿヲ得ルカ故ニ実際ニ於テハ毫モ妨ケナシトス

故ニ現今実際ニ在テハ一通ノ書面ヲ以テ弁論ノ事件ト答弁ノ事件トヲ併セ申立ルヲ以テ慣例トス而シテ之ヲ名ケテ異議ノ申立書ト称スルナリ又簡短ニ事実ヲ申立ルヰハ簡易申立書ト云ヒ訴訟ノ妨碍トナルヘキ事由ヲ申立ルヰハ確定申立書ト称スルナリ

左ニ記載スル所ノモノハ即チ異議ノ申立書式トス

異議ノ申立書

新約克南部地方ニ設置シタル合元國郡裁判所判事「サミユール、アル、ベッツ」貴下

被告「ダビットシヨーンス」ハ原告「ゼームスジヤクソン」ノ訴状ニ對シ左ノ如ク異議ノ申立ヲ為スヘシ

去ル六月十日ヲ以テ原告人ハ被告人ヨリ一弗ノ金額ヲ受取リ而シテ被告人ニ対シテ訴状ニ記シタル義務ヲ釋放シタル故ニ被告人ハ右訴訟ニ対シ答弁スヘキ義務ナキカ故ニ右訴訟ヲ却下シ而シテ其費用ヲ擔当セシメンヿヲ請フモノナリ

ダビットジヨーンス

何年何月何日余ノ面前ニ於テ誓言スル

モノナリ

合衆國委員　何ノ誰

被告代言人　何ノ誰

○原告人ハ訴狀中ニ記シタル箇条及ヒ疑問ニ對シタル答弁書ノ正否精疎ニ関シテ被告人ト等シク異議ノ申立ヲ为スヿヲ得ヘシ

此申立書ヲ作ルニハ極メテ注意ヲ要セサルヘカラス且ツ異議ヲ容レントスル事由ハ最モ精密ニ箇条ヲ分テ記載スヘキモノトス

又該申立書ハ遲滯ナク差出スヘキモノトス其期限ハ裁判所ノ規則ヲ以テ通常定メラルヽ且ツ書記ニ対シテ之ヲ差出シ而メ其報知ヲ対手方訴訟関係者ニ送ラサルヘカラス

又原告人ハ其異議ノ事件ヲ裁判所ニ於テ判決スル以前何時ヲ問ハス其申立書ヲ更正スヘキ請求ヲ为シ或ハ申立書ノ一部又ハ全部ヲ更正シタルノ報知ヲ共フルヿヲ得ヘシ

此場合ニ於テ書記報知ヲ受ケタルトキハ該申立ニ関シ被告人ヲシテ更ニ答弁セシメ或ハ一層明瞭精密ニ答弁セシメ或ハ不当ノ文字ヲ刪除セシムヘキ命令ヲ記入スヘキモノトス（海上裁判所規則第二十八条ヲ参照スヘシ）

又該申立書ニ対シ更正ヲ要セサルトキハ裁判所ニ於テ之レカ審問ヲ開キ而メ之ヲ棄却シ或ハ其正否ヲ判決スヘシ若シ正当ナリト判決シタ

ルトキハ裁判所ハ更ニ被告人ニ命令ヲ発シ被告人ヲシテ其令状ニ記載シタル期限内ニ之ヲ答弁セシメ且ツ相當ノ費用ヲ被告人ヨリ徴收スルヿヲ得ヘシ

又裁判所ハ前上ノ令状ヲ発見セスシテ更ニ被告人ヲシテ答弁セシメ或ハ被告人答弁スルモ原告人ニ於テ答弁ヲ求メタル箇条ノ趣旨却テ正当ナルトキハ恰モ其答弁ヲ加ヘサル時ト等ク其異議ノ申立ヲ認可シ而メ被告人ノ不利タルヘキ言渡ヲ為スヿヲ得ヘシ

○答弁書ノ事

○凡ソ物権或ハ人権ノ訴訟上原告ニ於テ答弁書ヲ請求シタルトキハ被告トシテ関係者タラシ

メタル者ハ原告ノ訴状ニ対シ答弁書ヲ差出サザルヘカラス但シ争訟ノ金額費用ヲ除キ五十弗以上ナルトキハ誓言ヲ以テ答弁スヘキモノトス又訴状ノ順序ニ従ヒ其訴状ノ各条ニ対シ充分明瞭ニ答弁シ且ツ訴状ノ紙末ニ掲ケタル疑問ニモ亦充分明瞭ニ答弁ヲ加ヘサルヘカラス

〔海上裁判所規則第二十七条ヲ参照スヘシ〕

然リト雖モ争訟ノ金額費用ヲ除キ五十弗以下ナルトキハ前上ノ規則ヲ適用スルヲ要セス但シ裁判所ニ於テ裁判ヲ行フ為メ必要ナリト思料シタルトキハ格別ナリトス〔海上裁判所規則第四十九条ヲ参照スヘシ〕

左ニ記載シタル所ノモノハ答弁書ノ書式トス

答弁書

新約克南部地方ニ設置シタル合衆國郡裁判所判事「サミユールアルベッツ」貴下「マパルタン」號船ニ関係ヲ有スルメーン州ポルトランド所住「ジヨン、リチヤード」ハ新約克府ニ於テ「ギムバル」及ヒ「セルドン」ノ名ヲ以テ商業ヲ營ム商人「イドセンドキムバル」及ヒ「チヨーデアル、セルドン」ノ訴状ニ対シ左ノ件々ヲ答弁スルモノナリ

第一条　訴状中第一第四及ヒ第五条ニ記載シタル事件ハ答弁人ニ於テ毫モ認知セサル所ナリ而シテ其第二及ヒ第三条ニ記載シタル事件ニ就テハ被告人ニ於テ親ク認知セサル所ナレトモ茲ト全ク詐偽ノ申立ニシテ其事実ハ下ニ記載シタルニ外ナラサルヘク信認セリ

第二条　右「スパルタン」號ハ充分ノ艤装ヲ整ヘ十一月二十八日ノ夜月夜及ヒ風潮ノ順宜キヲ得テ新約克灣ニ進入セリ然レトモ風力稍々微弱ナルヲ以テ月没マテニ該船ハ川ノ東口ニ進ムヿヲ得ス遂ニ月没暗黒ノ夜トナリタルヲ以テ僅ニ所ヲ距ルモ燈火ニ依ラサレハ該船体ヲ認ムルヿヲ得サルニ至レリ

此時既ニ錨ヲ卸サントスルノ際該船

舶ノ舶長及ヒ舶員ハ其舶首ノ方ニ当リ一舶ノ碇泊シタルヲ発見シタリ焉ソ罔ラン是レ「ビユノスアイレス」號ナリキ然レ共未タ僅ニ距離ヲ存シタルヲ以テ「スパルタン」號ノ舶長及ヒ舶員ハ頗ル尽カシテ其衝突ヲ防キタレ𪜈風潮ノ勢カニ因リ遂ニ防禦ノ効ナク右「ビユノスアイレス」號ヲ突キ莫大ノ損害即チ二百五十弗余ヲ被ラシメタリ

第三条　前ニ記載シタル當時「ビユノスアイレス」號ハ新約克港内「イーストリバー」川「アルトンフエリー」及ヒ「ソースフエリー」トノ間ニ碇泊シタリト雖𪜈

其甲板或ハ其他「スパルタン」號ノ舶長及ヒ舶員ヲシテ認メシムヘキ場所ニ燈火ヲ掲ケサリシヲ以テ遂ニ此ノ如キ結果ヲ来スニ至レリ是レ蓋シ入港舶船ノ必ス通過スヘキ「イーストリバー」川ノ近傍ニ於テ相当ノ燈火ヲ掲ケス碇泊ヲ为シタル「ビユーノスアイレス」號ノ舶長士官及ヒ舶員ノ懈怠及ヒ不注意ニ因ルモノナリ

第四条　此書面ニ掲ケタル諸般ノ事件ハ総テ正実ナリ

故ニ答弁人ハ貴廳ニ於テ前上ノ訴状ニ對スル言渡ヲ为シ且ツ原告人ヲシ

テ其費用ヲ擔当セシメ其他法律及ヒ
条理ニ依テ至当ナル判決ヲ與ヘラレ
ンヿヲ請願スルモノナリ

答弁人代言人

バル

ベ子ヂクト

何年何月何日余ノ面前ニ於テ誓言
スルモノナリ

何ノ誰

○然リト雖モ被告人ハ訴状中ニ記載シタル事
由苟クモ被告人ノ犯罪處罰或ハ被告人ノ財産
没収ニ係ルトキハ之ヲ答弁スヘキ義務ナシトス」

司法省

又被告人ハ此ノ如キ訴状ヲ禁スルヿヲ得ス其
答弁ヲ拒絶スヘキ理由ヲ申立テサルヘカラス」
此場合ニ於テ其拒絶全ク訴状ノ全部ニ係ルトキ
ハ特別ニ其訴訟ヲ拒絶スル異議ノ申立ヲ為ス
ヿヲ得ヘシ他ノ場合ニ於テハ答弁書ヲ以テ異
議ノ申立ヲ供セテ為スヿヲ得ヘシ」海上裁判所
規則第三十一条ヲ参照スヘシ」

○質問書ノ事

原告人ハ被告人ニ對シ質問スヘキ権利アルト
等ク被告人モ亦原告人ノ誓詞ニ對シ之ヲ為ス
ノ権アルモノトス故ニ其答弁書ノ紙尾ニ於テ
原告ノ訴状ニ記載シタル事由或ハ答弁書ニ掲
載シタル事由ニ関スル質問ヲ原告人ニ対シテ

開陳スルヿヲ得ヘシ

此質問ハ箇条ヲ以テ區別ヲ為シ而シテ原告人ニ宣誓ノ上其箇条ノ順序ニ從ヒ明細ニ其質問ニ答ヘサルヘカラス

被告人ト等ク原告人モ亦犯罪処罰或ハ財産没收ニ係ル質問ニ對シテハ答弁スヘキ義務ナシトス

各関係者ハ審問已前何時ヲ問ハス一方ノ関係者ニ對シ質問ヲ起スヿヲ得必スシモ通常ノ規則ニ從ヒ弁論書ヲ差出スト同時ニ之ヲ为シ或ハ之ヲ差出スヲ要セス（海上裁判所規則第三十二条ヲ参照スヘシ）

左ニ記載スル所ノモノハ即チ質問書ノ書式トス

質問書

新約克南部地方ニ設置シタル合衆國郡裁判所ニ於テ船員給料ニ関スル海上民事訴訟ノ被告人「アブラハムファアルマル」及ヒ「チモシー、ステベンス」ヨリ原告人「ゼームス、ビー、タッケル」ニ對シ質問ヲ为ス

「左ノ如シ

第一条　前上所謂「チモシー、ステベンス」ハ去ル六月中或ハ其他ノ時日或ハ特別ニ「ヲルビット」號ニ於テ使役シタル給料ヲ汝ニ提供シ或ハ汝ニ對シ償却スヘキヿヲ申立タル乎果シテ申立タル件

ハ幾許ノ金額ヲ汝ニ償却スヘキヿ
ヲ認メタル乎

第二条　右「ステベンス」ハ二十五弗五
十「セント」ノ金額ヲ汝ニ提拱シ或ハ
之ヲ償却スヘキヿヲ申出テサリシ
乎

第三条　汝ハ右「ステベンス」ノ提拱シ
或ハ申出テタル金額ヲ領收スルヿ
ヲ拒マサリシ乎

代言人
何ノ誰

司法省

原告人ニ於テ受ケタル質問ニ對シ相当ノ答弁
ヲ加フルヿヲ怠リタルトキハ被告人ハ恰モ原告
人ニ於テ被告人ノ答弁書ニ對シ異議ヲ容ルヽ
ト等ク原告人ノ答弁書ニ對シ亦異議ヲ容ルヿ
ヲ得ヘシ

此場合ニ於テ裁判所ハ其異議ノ申立ヲ審問ノ
上原告人ノ懈怠及ヒ訴訟棄却ノ否ヤヲ判決シ
或ハ差押状ヲ発シテ裁判所ノ規定シタル期限
内ニ更ニ答弁セシメ或ハ裁判所ニ於テ相当ト
思料スルトキハ不完全ノ答弁ヲ加ヘタル事件ノ
ミヲ被告人ノ利益ニ判決スルヿヲ得ヘシ海上
裁判所規則第三十二条ヲ参照スヘシ

若シ原告又ハ被告地方ヲ去リ或ハ疾病其他ノ
事故ニ因テ相当ノ期限内ニ質問ニ應シテ宣誓

ノ上答弁スルヿヲ得サル場合ニ当リ裁判所ニ於テ相当ノ判決ヲ與フル均メ必要ナリト思料シタルトキハ更ニ其期限ヲ延シ而メ成ルヘク速ニ其答弁書ヲ差出スヘキ命令ヲ下スヿヲ得ヘシ（海上裁判所規則第三十三条ヲ参照スヘシ）

被告人ノ答弁書ニ對シ原告人不服ヲ唱ヘタルトキハ原告人ハ更ニ弁駁書ヲ以テ其理由ヲ開陳スヘシ但シ弁駁書ハ通常答弁書ニ掲ケタル事由ヲ駁スルニ止ルモノトス（現今ニ至テハ弁駁書ヲ用フルヲ許サス）

通常ノ弁駁書ハ誓詞ヲ掲ケスシテ即チ左ノ書式ニ依ルヘキモノトス

新約克南部地方ニ設置シタル合衆國郡司法省裁判所判事「サミユール、アルベッツ」貴下

原告「トーマス、ジー、スミス」ハ其訴状ノ正実確適ナルヿヲ保証シ而メ被告人ノ答弁書ハ不正実ナルヿヲ申立テ且ツ既ニ訴状ヲ以テ請求シタル如ク判決アランヿヲ切ニ希望スルモノナリ

原告代言人　バルベ子ゲクト

又時機ニ依リ答弁書ニ新ナル事由ヲ記載シタ

ルトキハ之ヲ弁駁スルヲ必要トスル場合アリ此時ニ當テハ特別ノ弁駁書ヲ以テ其新ナル事由ヲ弁駁スルヲヲ得ヘシ但シ特別ノ弁駁書ハ答弁書ト等ク誓詞ヲ掲クルモノトス

故ニ凡ソ弁論ハ其法式上必要ナルトキハ従テ論シ従テ駁シ到底数回ニ渉ルヲアリ即チ弁駁書再答弁書再駁書弁論書（再駁書ニ應スルモノ）是レナリ然レモ実際ニ在テハ此ノ如ク連続スルヲ殆ト稀レナルヲニテ現今ニ至テハ全ク之ヲ廃止シタリト考定スルヲヲ得ヘシ

凡ソ一訴状ヲ以テ数多ノ事由ヲ掲ルヲヲ得ルカ故ニ答弁書モ亦場合ニ依リ数多ノ弁論ヲ掲ルヲヲ得ヘシ

第二十七章　弁論書ノ更正増補ノ事

○既ニ前ニ論シタル如ク海上事件ハ関係者ノ申立書及ヒ証拠書類ニ従テ審理判決スヘキモノトスルカ故ニ米國海上裁判所ニ於テハ原被両造ヲシテ充分其証拠ヲ呈出セシメ以テ訴訟ノ曲直ヲ顛倒セシムルヲナク実際ノ事実ニ適スヘキ判決ヲ下スヘキノ便益ヲ得セシメ或ハ對手人ヲ恐赫シ或ハ詐偽妄術ヲ用ヒテ之ヲ害スルカ如キ所為ニ至テハ決シテ許サヽル所トス

故ニ至當ノ理由ヲ証明スルニ於テハ弁論書ノ過誤欠文ハ之ヲ改補シ且ツ事実及ヒ法式ニ係ル弁護上ノ過誤ノ如キモ審理中何時ヲ論セス

之ヲ改正スルヿヲ得ヘキモノトス

海上裁判所ニ於テハ書面ニ依リ証拠不充分ナリト思量スル時ト雖モ原告ノ請求ヲ棄却スルヿナク更ニ新ナル書面ヲ以テ其権利ノアル所ヲ弁セシムルヲ以テ慣例トス而ソ之ヲ取ルト否トハ固ヨリ裁判所ノ意見ニ任セリ

又判決ノ後ト雖モ何時ヲ問ハス裁判所ヘ出願仮令モ判決已前ト雖ク書類ノ更正ヲ為スヿヲ得ヘシ

又新ナル箇条ヲ加ヘ且ツ新規及ヒ増補ノ申立ハ最終ノ判決ヲ行フ以前何時ヲ問ハス之ヲ為スヿヲ得ヘシ若シ又其新ナル申立全ク其訴訟ノ本案ニ関スルトキハ上訴裁判所ニ上訴シタル後ト雖モ之ヲ為スヿヲ得ヘシ故ニ此他本案ニ

係ラサル申立ハ上訴裁判所ニ於テ新ニ之ヲ為スヿヲ得サルモノトス（海上裁判所規則第二十四条及ヒ司法条例第三十二条ヲ参照スヘシ）

未タ答弁ヲ為サヽル已前或ハ相手方ニ於テ未タ答弁ノ手続ニ着手セサル已前ニ在テハ無論相手方ニ通知ヲ要セス或ハ裁判所ニ出願ヲ要セス直チニ更正ヲ為スヿヲ得ヘシ

此場合ニ於テハ其更正書ヲ書記ニ差出スヘキモノトス若シ其更正相手方出庭ノ後ニ係ルトキハ其謄本ヲ相手方ニ送達セサルヘカラス

凡ソ原書ノ更正ニ就テハ彼ノ宣誓ノ上証明スヘキ規則ヲ適用スヘキモノトス

原告又ハ被告人中ノ一名最終ノ判決已前ニ死

去シタル場合ニ當リ依然トシテ其訴訟ヲ継續シタルトキハ其訴訟ハ此者ノ死去ニ因テ毫モ妨害セラルヽイナシ然レトモ其死去ノ申立ハ書面ヲ以テ為シ而メ生存者ノ名ヲ以テ其訴訟ヲ継續スヘキモノトス

原告又ハ被告最終ノ判決已前ニ死去シタル場合ニ当リ法律ヲ以テ其訴訟ヲ継續スヘキトキハ其死者ノ遺嘱執行人若クハ遺物管理人ニ於テ其判決ニ至ルマテ其訴訟ヲ為シ或ハ答弁スヘキ権力アリ而メ裁判所及ヒ相手方ノ者ニ於テハ其遺嘱執行人若クハ遺物管理人ヲ死者ト同視スヘキ義務アルモノトス

又遺嘱執行人ハ通常出願ノ上次回ノ裁判期マテ其訴訟ノ審理ヲ延期スヘキ求ッヲ為スノ権アリト雖モ其他ノ者ニ在テハ之ヲ求ムルノ権ナシトス

前上ノ規則ハ最上裁判所ニ於テ慣例法ニ係ル訴訟上適用スヘキ為メ制定シタルモノナリ是レ蓋シ遺嘱執行人ニ對シ出廷ノ認可ヲ與ヘタル後ニ至リ其者果シテ其執行人タルヤ否ヤヲ監定セシムルハ頗ル迂遠ニ嘱スレハナリ故ニ実際ニ在テハ出廷ノ認可ヲ得ヘキ願ヲ為ストキハ一方ノ者ヲシテ其者果シテ執行人タルヤ否ヲ監定セシムル為メ一方ノ者ニ通知ノ上之ヲ為スヘキモノトスルハ疑ヲ容レサル所ナリ

若シ遺囑執行人又ハ遺物管理人出廷ノ上訴訟関係者タルヿヲ怠リ或ハ肯ンセサルトキハ裁判所ニ於テ令状ヲ発シ如何ナル理由ヲ以テ其訴訟ヲ継続セサルヤヲ証明セシムルヿヲ得ヘシ」

此時ニ当リ若シ其執行人若クハ管理人此令状ヲ受ケタルヨリ二十日以内ニ出廷セサルトキハ裁判所ニ於テ恰モ其執行人若クハ管理人自身ノ訴訟ニ於ケルト等ク其死者ノ為メ不利ト為ルヘキ判決ヲ下スヿヲ得ヘシ

凡ソ答弁書及ヒ訴状其他ノ弁論書ハ確実明瞭ニ其事由ヲ記載スヘシ

若シ人ノ不正行ヲ訴フルトキハ其事実ト其時日場所及ヒ形況ヲ特別ニ確言セサルヘカラス

又諸般ノ答弁書ハ是認或ハ拒絶或ハ弁駁ヲ以テ各条ニ記載シタル事由ヲ應答セサルヘカラス

所謂確実明瞭ハ弁論書上最モ欠クヘカラサルモノトス何トナレハ若シ訴訟関係者ニ於テ正当ノ申立ナルヤ否ヤヲ証明スルヿ能ハサルトキハ申立タル事実果シテ其効力アルヤ否ヤヲ認定スルヿ難キカ故ナリ但シ争訟事件トシテ裁判所ニ申立タルトキハ格別ナリトス

凡ソ訴訟関係者ノ申立ツヘキ事実ハ一度ニ裁判所ニ申立ツルヲ以テ通則トスレモ若シ新ニ関係者タル者アルカ又ハ訴訟本案ニ就キ新ニ申立ツヘキ事由アルトキハ(訴状、答弁書、質問書或

ハ異議ノ申立書ノ増補書ヲ差出スヿヲ得ヘシ

又其更正書ニハ別段誓詞ヲ掲ケサルモ新ナル事由ヲ裁判所ニ申立ルノ法ニ適スルモノトス

若シ弁論書又ハ其他ノ書類ニシテ法式ニ違ヒ或ハ事実ニ背キタルヿアルトキハ之ヲ更正スルヿヲ得ヘシ故ニ無関係者ハ何時ヲ問ハス其書類ヲ更正増補シ或ハ刪除スルヿヲ得ヘキモノトス

各関係者ハ相手方ニ對シ原文ノ謄本ヲ給スルヲ要セス然レトモ各関係者ハ書記局ニ請フテ之ヲ領收スルヿヲ得ヘシ但シ新ニ改正増補シタル場合ニ在テハ相手方ニ之ヲ送付スヘキモノトス

又此ノ如キ更正増補ノ書面ヲ差出シタル場合ニ於テ本案ノ訴訟判決ヲ遅延ナラシメタルトキハ相手方関係者ハ其遅延ニ関シテ裁判所ノ注意ヲ請フノ権アルモノトス

○第二十八章　保証及ヒ保釈ノ事

○凡ソ海上裁判所ニ於テ保証若クハ保釈ヲ為スノ法ハ慣例法ニ所謂保釈書或ハ証書ヲ用ヒスシテ即チ保証書ヲ用フル所以ハ既ニ前ニ陳述シタル如ク今其保証書ヲ記スルニ就テハ特定ノ書式ナシト雖モ正当ノ制裁ニ従ヒ保証人其責ニ任スヘキヿヲ義諾シタル所以ヲ明記スルヲ以テ足レリトス又保釈証書或ハ証書ト雖モ米國海上裁判所ニ於テハ採用スヘキ者ト判定セリ

然レトモ海上裁判所ハ鈐印証書ニ関スル訴訟ヲ判決スルノ権アルヤ否ヤニ就テハ頗ル論議ヲ容ル、者アレトモ其議論ノ起ル所以ハ畢竟彼ノ英國ニ於テ海上裁判所ハ此権限ナシト定メタル規則ヲ適用セントスルニ因レリ

夫レ海上保証書ノ書式ハ通常簡短ニ訴訟ノ模様ヲ記シ而シテ紙尾ニ其保証ノ義務如何ヲ明示スヘキモノトス又保証書ニハ別段鈐印ヲ要セスシテ執行シ而シテ裁判所或ハ書記或ハ委員ノ面前ニ於テ之ヲ認可スヘキモノトス

夫レ保証書ハ他ノ事件ニ係ル契約書ト異ナルモノナリ蓋シ契約書ハ結約者双方ノ者ノ意思ヲ紙面ニ写出スルモノナリト雖モ海上裁判所ニ於テ訴訟審理中其職権ヲ保全執行スヘキ為メ要スル所ノ保証書ニ至テハ裁判所ノ命令或ハ法律ニ従テ之ヲ記スヘキモノトス

司法省

保証書ノ書式ハ法律若クハ裁判所ニ於テ指定シ其義務ノ如何ニ就テハ関係者ノ意見ニ掲ハラサルカ故ニ関係者ノ意見ハ之ヲ保証書中ニ掲載スルヲ要セサルナリ

故ニ若シ保証書中曖昧ノ文字アリ或ハ解シ難キ場合ト雖モ余輩ハ保証人ノ意思如何ヲ尋問スルヲ要セサルヘシ何トナレハ保証ノ条件ヲ判定スルニハ毫モ其意思如何ニ関係ナケレハナリ故ニ此場合ニ在テハ裁判所ノ意見或ハ保証書ノ事及ヒ其書式ヲ定メタル法律ニ依テ之ヲ判断スヘキモノトス

裁判所ニ於テハ通常証人ヲ見ヘタル保証書ニ代ヘ若干ノ金額ヲ保証金トシテ裁判所登記局ヘ預ケシムルアリ

又証人ヲ立テタルトキハ其証人ハ負債金額ノ二倍ヲ擔当スヘキ責ニ任スル旨ヲ誓言スヘキモノトス

若シ訴訟関係者ニ於テ保証人ノ責任如何ニ就キ一層明瞭ナル訊問ヲ為サントト欲スルトキハ異議ノ申立書ヲ差出シ且ツ相手方ニ其旨ヲ通知シ其証人ヲシテ裁判所若クハ委員ノ面前ニ出頭セシメ其財産及ヒ責任ニ関スル訊問ヲ為スヘキ求メヲ為スヲ得ヘシ（海上裁判所規則第六条第十条及ヒ第十一条ヲ参照スヘシ）

若シ各関係者ニ於テ不充分ノ証人ヲ立テ或ハ其証人責任ヲ負フ能ハス或ハ不充分ト為リ

或ハ地方ヲ去テ他ノ地方ヘ移轉シタル場合ニ在テハ相当ノ請願ニ依リ裁判所ニ於テ更ニ相当ノ証人ヲ立テシムヘシ但シ原告人ノ場合ニ在テハ審理ヲ中止セシタタル罰ヲ加ヘ又被告人ノ場合ニ係ルトキハ他ノ者ヲシテ其訴訟ニ參セシメ而シテ之ヲ答弁セシムヘキノ権利ヲ失ハシムヘキ者トス

海上裁判所ニ於テ審理中要スル費ノ保証昏ハ其數類多シトス今羅馬ノ慣例ニ依レハ事件ノ性質撲採及ヒ法式ニ從ヒ各々其趣ヲ異ニシテ其区別頗ル多シ然ルニ現今ニ至テハ此区別ハ全ク地ヲ拂フニ至リ実際其利益ヲ見ルハ殆ント稀レナリトス

司法省

留キニ「レーンヨリ」「トウンセント」ニ係ル訴訟上老練ノ聞ヘアル判事「ウエール」氏ハ此事ニ就キ頗ル明確ナル判断ヲ下シ其趣意ハ恰モ最上裁判所海上裁判規則ノ領布以前ニ唱フル所ト異ナラサルナリ

現今米國海上裁判所ニ於テ実際使用スル所ノ保証書ハ即チ訴訟費用及ヒ損害賠償ニ関スル場合及ヒ裁判所ニ出頭シ且ツ其判決ヲ遵守シ而シテ償却スヘキ命ヲ受ケタル金額ヲ償還スヘキ場合ニ限レリトス而シテ其昏式ノ如キモ始審及ヒ終審裁判所ニ依テ其体裁ヲ異ニスルモノトス

〔海上裁判所規則第三条第四条第十条第十一条第二十五条及ヒ第三十五条ヲ參照スヘシ〕

元ノ人權及ヒ物權ノ訴訟上費用ニ関スル原告人ノ保証書ハ裁判所又ハ上訴ノ場合ニ在テハ上訴裁判所ノ判決ヲ以テ命スヘキ諸般ノ費用ヲ償還セシムル為メ差出サシムルモノトス〔海上裁判所規則第二十六条ヲ参照スヘシ〕

人權ノ訴訟上保釈ヲ得ス且ツ其訴訟ノ趣意ヲ若年セシムヘキ為メ物件ヲ差押ヘサルヘキハ裁判所ハ隨意ニ被告人ヲシテ其指定スル金額ニ相当スル保証書ヲ差出サシメ他日其裁判所ノ最終ノ判決若クハ中間ノ命令ヲ以テ命スヘキ諸般ノ費用ヲ償還スヘキ保証ヲ為サシムルヿヲ得ヘシ〔海上裁判所規則第二十五条ヲ参照スヘシ〕

此ノ如キ場合ニ当リ裁判所ニ於テ保証書ヲ求ムル所以ハ畢竟被告人ヲシテ出庭ノ上訴訟事件ヲ論弁セシムルニ外ナラサルナリ

凡ソ物件ニ対シ請求ヲ起シタル場合ニ於テ原告人ハ裁判所ノ命令ニ従ヒ其請求金額ニ相当スル保証書ヲ差出シ他日其裁判所又ハ上訴ノ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ判決ヲ以テ命スヘキ諸般ノ費用ヲ償却スヘキ旨ヲ保証セサルヘカラス〔海上裁判所規則第二十六条ヲ参照スヘシ〕但シ被告人ノ財産ヲ差押ヘタル場合ニ係ル時ハ原告人ハ其費用ヲ擔当スヘキ責任アリトス

物權ノ訴訟上第三ノ人ノ関與シタル場合ニ於

テハ最終ノ判決ヲ遵守シ且ツ始審終審ヲ論セス裁判所ニ於テ最終ノ判決ヲ以テ命スヘキ諸般ノ費用及ヒ損害賠償ノ金額ヲ償還スヘキ保証昏ヲ差出スヘキモノトス〔海上裁判所規則第三十四条ヲ参照スヘシ〕但シ第三ノ人ニ於テ損害賠償及ヒ訴訟費用ヲ擔当スルノ理由如何ニ就テハ自ラ明瞭タル理論ヲ存セリ

元ソ人権ノ訴訟ニ関スル保釋証昏ハ関係者ヲ差押ヘタル時或ハ差押ヘタル財産権利ヲ釈放シテ其者ヲ出頭セシムル時ニ要スルモノトス即チ此場合ニ於テハ其訴訟ニ出頭シ且ツ裁判所ニ於テ下スヘキ諸般ノ命令ヲ遵奉シ而メ令状ノ復命ヲ受クヘキ裁判所或ハ上訴裁判所ニ於テ下スヘキ判決ヲ以テ定メタル金額ヲ償還スヘキ旨ヲ保証スヘキ者トス〔海上裁判所規則第三条及ヒ第四条ヲ参照スヘシ〕但シ此保証昏ヲ以テ証人ハ随意ニ本人ノ義務ヲ免レシムヘキ権ナシ本人モ亦随意ニ保証人ノ義務ヲ免レシムルノ権ナキモノトス何トナレハ保証ハ判決ノ金額ヲ償却スヘキ約定ナレハナリ

又物権ニ関スル訴訟上差出スヘキ保証昏ハ即チ訴訟物件ノ釈放ヲ得ヘキ為ノ出スヘキモノトス若シ釈放ヲ得タル上ハ所有者ニ於テ訴訟物権ヲ領収保存スルト並ヒニ法律上其物件ニ附着スヘキ差押権ヲ免レカラサル所以ハ既ニ前ニ論述シタルカ如シ故ニ所有者ニ於テハ其

釈放後出訴シタル者ノ請求シタル金額ヲ除キ釈放ノ当時原告人ノ得ヘキ金額ニ対シテ之ヲ償還スヘキ保証ヲ供フルノミニテ足レリトス

故ニ所有者ハ其物件ヲ領収スル已前裁判所ノ指定シタル金額ニ相当スル保証書ヲ差出シ判決ヲ遵奉シ且ツ始審又ハ終審ノ裁判所ニ於テ下スヘキ判決ヲ以テ定メタル金額ヲ償還スヘキ旨ヲ保証セサルヘカラス〔海上裁判所規則第十条及ヒ第十一条ヲ参照スヘシ〕

物件ノ価格ニ係ル保証書ハ物権ノ訴訟上其物件ニ対シ差押権ヲ行フ場合ニアラス全ク其物件ヲ還付シ或ハ之ヲ売却スヘキ場合ニ係ルモノトス即チ巡捕、公売、救助、所有権上ノ訴訟或ハ不正ノ所有者ニ係ル訴訟ノ場合是ナリ

以上掲ケタル諸般ノ場合ニ於テ関係者若シ保釈ニ附シタル物件ヲ得ヘキノ権アルトキハ其者ハ其物件ノ実価ヲ償フヘキ保証書ヲ出スヘキ義務アリトス

又何ナル場合ト雖モ物件ノ実価ヲ償フヘキ保証書ヲ出スニ於テハ保釈ニ附シタル物件ノ交附ヲ受ケ得ヘシ但シ此価格ハ通常関係者ノ商議約定ニ依テ定メヘキ者トス

若シ此時ニ当リ関係者ノ商議約定ニ依ル能ハサルトキハ裁判所ニ於テ関係者ノ情願及ヒ之ヲ審訊シタル上宜敷評価人ヲ命シテ之ヲ評価セシムルモノトス

前上ノ價額確定シタル上請求人ハ其金額ニ相当スル保証書ヲ差出シ他日裁判所或ハ上訴ノ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ判決アリタルトキハ之ヲ原告代言人ニ通知シ而ノ評價ノ金額ヲ裁判所ニ納付スヘキ旨ヲ保証スヘキモノトス

○今茲ニ船舶ニ対スル海上訴訟ノ費用減少ニ関スル規則ト名称スル彼ノ一千八百四十七年三月三日ノ決議法ニ就キ少ク論セントス是他ナシ訴規則ノ編成其当ヲ失シ且実際ニ適セサル為ノ往々善良ノ目的ヲ傷ヒ実際ニ在テハ毫モ得ル所ナクシテ却テ害ヲ来スニ至リシカ故ナリ

然レトモ訴法律ハ議院ノ賢明議員ニ於テ議定シ而ノ遂ニ上下両院ノ認可ヲ経タル法律ニシテ其目的ハ善スヘキモ其編成ノ不完全ニ帰スルヲ以テ今其議員ノ意見如何ニ就テハ敢テ喙ヲ容レス訴法律ハ全ク船員ノ訴訟ヲ拒絶セントスルモノニテ実ニ萬國就中我合衆國民ノ不便ヲ與ヘタルノ一言ヲ呈シテ上マントス

抑々船員ニ拂フヘキ金額ハ通常五十弗以下ニ止リ一百弗ヲ超過スル場合ハ殆ト稀有ナリ而ノ之ヲ出訴スルニ当リ苟モ代言人ノ助ケニ依ラサレハ常ニ勝利ヲ得ル能ハ是実際往々免レサル所ナリトス

然ルニ今訴法律ヲ以テ僅ニ少数ノ負債ヲ求ム

ル船員ニ対シテハ仮令其訴訟直タルヘキ場合

ト虽ヒ其費用ヲ納メサレハ其判決ヲ受ルヿヲ得サラシメ稍々多額ノ請求ヲ為スヘキ商賈ニ対シテハ仮令ヒ曲タルヘキ場合ト虽ヒ其費用ヲ納ムルトキハ其判決ヲ受ケシムルニ至レリ此区別ハ即チ該法律ヨリ生スル所ノ結果ナレヿ瞭然タリ

故ニ実際ニ於テハ船員ノ古来貴重シタル船舶差押権ノ如キモ自ラ之ヲ奪却スルニ至リシノミナラス費用減少ノ為メ設ケタル規則ナリト虽ヒ実際決シテ之ヲ減少セスシテ依然タル金額ヲ徴収シ且直者ヲシテ却テ曲者ニ陷ラシムルノ弊害アリ

又書記ニ於テハ其職務ヲ拒マスシテ通常ノ如ク行ハサルヘカラス又「マルシヤル」ト虽ヒ保護ノ任ハ充分之ヲ尽サヽルヘカラス又公告入費及ヒ看守人ノ費用其他須要ナル謝金ハ尚ホ之ヲ償ハサルヘカラス然レヒ此等ノ費用謝金ヲ償ハシムルノ道ニ至テハ如何ンヒスル能ハサルナリ但シ原告人ニ於テ此ノ如キ莫大ノ金額即チ請求金額ノ百分ノ五十ヲ納付シ以テ証人及ヒ委員ニ関スル諸般ノ費用ヲ償ヒ残額ハ政府ノ官吏中ニテ平当ニ分派スルヿヲ得ヘキ場合ハ格別ナリトス

然リト虽ヒ裁判所ニ於テ船員ノ水先案内ヲ為スヘキ所謂代言人ノ諸費ニ至テハ更ニ船員ノ嚢中ニ仰カサレハ金ヲ之ヲ得ルノ道ナシトス」

左ニ記載スル所ノモノハ即チ訴訟法律ノ明文ナリトス

船舶ニ対スル海上訴訟ノ費用減少ニ関スル規則

亜米利加合衆國上下両院ニ於テ左ノ決議ヲ為シタリ

凡ソ海上裁判権ヲ有スル合衆國裁判所ニ提起シタル訴訟上差押状或ハ其他物権ニ係ル令状ヲ発シタルトキハ「マルシヤル」ニ於テ此ノ如キ令状ノ執行ヲ停止シ或ハ若シ物件ヲ差押ヘタルトキハ其差押ヘタル物件ヲ釈放スルノ職務アリトス但シ此場合ニ在テハ訴物件ノ引渡ヲ受クヘキ者ヲシテ

司法省

原告人ノ請求高ノ二倍ニ相当シ而ノ訴裁判所ノ判事或ハ判事アラサルトキハ收税官ノ認可シタル証人ヲ具ヘタル証券或ハ保証書ヲ差出サシメ本訴ニ係ル裁判所ノ判決ヲ遵奉スヘキ旨ヲ保証セシムヘキモノトス

又訴訟券或ハ保証書ハ訴裁判所ニ差出サシメ而ノ之ニ関スル判決ハ本案ノ判決ヲ為スト同時ニ下スヿヲ得ヘキモノトス

又此場合ニ於テ原告ノ請求高一百弗未満ナル時ハ其訴訟入費ハ原告請求高ノ百分ノ五十ニ過ルヿヲ得ス但シ訴費用ハ第一ニ証人及ヒ若シ委負其訴訟ニ與リタルトキ

八 委員ニ関スル諸般ノ費用ニ充テ而シテ其残額ハ其訴訟ヲ審問シタル裁判所ノ判事ノ命令ニ従ヒ書記及ヒ「マルシヤル」ノ間ニ平当ニ分流スヘキモノトス

又代言人ノ謝金ハ訴費用ヲ以テ支出スル

コトヲ得ス

一千八百四十七年三月三日認可

此法律ノ明文ニ依ルトキハ果シテ此法律ハ内國人ハ勿論外國人トモ原告ノ請求金額ヲ償却スヘキ証書ヲ出ストキハ訴訟船舶ノ引渡ヲ受クルコトヲ得ヘキノ趣意ナルヤ果シテ其趣意ニアラサレハ「マルシヤル」ハ如何シテ之ヲ區處スヘキヤ又訴法律ハ独リ訴訟上利害ノ証拠ヲ明示シタル請求及ヒ保証書ニ差出シタル者ノミヲ称シテ海上慣例法ニ所謂請求者トヽヽヽヽ云フノ趣意ナルヤ果シテ然ラハ訴請求書ハ書記ニ差出ス可キヤ又訴法律ハ物権ニ関スル諸般ノ訴訟ヲ含蓄スル乎又審理手続ヲ中止シ而メ原告人ニ通知ノ上行フヘキ評價又裁判所ノ命令若クハ處分ニ依ラス單ニ保証書ヲ領収シテ物件引渡ニ関スル争訟ヲ判決スヘキ裁判上欠クヘカラサル要権ハ即チ裁判所ヨリ「マルシヤル」ニ移シテ行ハシムヘキモノ乎又物件ヲ差押ヘサル場合且ツ関係者ノ出庭セサル場合ニ在テ原告人ハ如何ナル方法ヲ以テ其判決ヲ受ケル乎又判決ヲ遵奉スヘキ証書ハ被告欠席シテ

独リ原告ノミ存スル場合ニ在テハ抑々如何ナル用ヲ為スヤ

以上掲ル所ノ疑問及ヒ掲ケサル此他ノ疑問ハ此法律ノ適用ヲ熟心スル所ノ諸人ヲシテ之ヲ答弁セシメサルヘカラス但シ此法律ニ関スル実際ノ手続ハ簡短ナリトス即チ左ノ如シ

一　訟書ヲ作ル「

二　此証書ハ証人ヲ具ヘ且ツ判事若クハ收税官ノ認可ヲ受ル「

三　此証書ヲ「マルシヤル」ニ差出シ而メ物件ヲ受取ル「

四　何人ニ対シテモ別段謝金ヲ要セサル「

司法省

○原告人費用ニ関スル保証ヲ差出スヿ能ハサル片ト並ニ判事ニ出願ノ上誓詞ノ豫約若クハ誓詞ヲ以テ保証ヲ為シタル片ハ此理由ヲ以テ其裁判ヲ拒絶セラルヽヿナシトス此規則ハ蓋シ慣例法ニ所謂貧民訴訟法ト異ナラサルモノニシテ即チ原告人ハ裁判所ヨリ指定シタル金額ヲ以テ其出庭ヲ約シ而メ若シ出庭セサル片ハ其金額ヲ納付スヘキ旨ヲ誓フモノトス

被告人モ亦保釈証書ヲ出スヿヲ得サル片ハ判事ノ允可ヲ得テ豫約ヲ為スヿヲ得ヘシ然レトモ此保証ハ実際容易ニ允可セサルモノナリ所謂費用ニ関スル誓詞上ノ保証ハ即チ左ノ書式ニ依ルヘシ

新約克南部地方ニ設置シタル合衆國郡裁判所ニ於テ原告何ノ誰ヨリ被告何ノ誰ニ係ル海上民事ノ訴訟

一千八百四十九年二月十日右原告何ノ誰親ノ茲ニ出頭シ而ノ此訴訟ヲ起シ且ツ此裁判所及ヒ若シ上訴ニ係ルトキハ上訴裁判所ニ於テ下スヘキ判決ヲ以テ定メタル諸般ノ費用ヲ償還シ及ヒ本月二十日令狀復命日ヲ以テ更ニ出頭スルノミナラス他日裁判所ニ於テ下命アルトキハ何時ヲ問ハス出庭スヘキヿヲ誓スル為メ一百弗ノ金額ヲ納付スヘキヿヲ約定ス

又前上何ノ誰ハ前陳ノ如ク相違ナク出廷スヘキヿヲ茲ニ誓言スルモノナリ

原告　何ノ誰

一千八百四十九年二月十日余ノ面前ニ於テ筆記誓言スルモノナリ

合衆國委員

チャールス、ダブリウニウトン

司法省

○第二十九章　船員給料ノ事

○凡ソ船員ノ性質及ヒ其使役ノ模様ハ一種特別ノモノナルカ故ニ議院ニ於テハ特別ニ船員給料ニ関スル訴訟ヲ審理スルノ法ヲ制定セリ抑々船員ハ海上法ニ於テ常ニ保護ヲ與フルモノト定メ而ノ其給料ノ如キハ固ヨリ危険ノ使

役ヲ受クルモノナルカ故ニ萬國共ニ法律ヲ以テ頗ル便益ヲ與ヘタリ

故ニ英國慣例裁判所ニ在テハ船員給料ニ関スル訴訟審判ノ権ヲ海上裁判所ニ移轉スルノミナラス之ヲ請求スル場合ニ於テハ船舶差押ノ権ヲモ附與スルニ至レリ是政略及ヒ裁判上船員ハ人民中最モ貴重須要ナル社会ナリト認メタルカ故ナリ

故ニ其金額ハ通常極メテ少額ナルモ船員ノ為メニハ頗ル便益ナル其給料ニ関スル争訟ヲ審理スヘキ方法ハ極メテ簡易ヲ旨トシテ制定セラレタリ

凡ソ船員ハ航海ヲ終ヘ而メ其積荷ヲ陸揚ケシタル上ハ直チニ其給料ヲ求ムルノ権アルモノトス

嚮キニ一千七百九十年七月二十日ヲ以テ頒布シタル法律ハ物權ノ訴訟ニ関スルモノナルカ故ニ船員ノ給料ヲ請求スル所謂人權ノ訴訟權ニ関係スル法則ハ未タ全ク備ハラサルナリ

然レモ若シ船員其給料ニ関シテ争訟ヲ起シ或ハ船舶ヨリ解雇セラレタルトキハ船員ハ猶豫ナク物權ノ訴訟ヲ以テ其給料ノ償還ヲ求ムルヿヲ得ヘシ但シ船員ニ於テ豫メ約定シタルヿアルトキハ十日間猶豫セサルヘカラス又或ハ積荷ヲ陸揚ケシタル後相当ノ時間猶豫セサルヘカラス

若シ船舶航海ヲ終リ而シテ給料ヲ拂ハスシテ其港ヲ出帆シ或ハ十日以内ニ再ヒ航海セントスルトキハ船員ハ訴訟ヲ為シ先ツ其船舶ヲ差押ヘ而シテ他ノ船員数名ヲシテ其訴訟ニ連合セシメ且ツ恰モ物権上ノ訴訟ト同一ノ處分ヲ得ヘキモノトス

此他ノ場合ニ在テハ簡易召喚状ヲ以テ民政官吏ノ面前ニ呼出シ而シテ該官吏ヲシテ訴訟ノ原因ヲ訊問セシムルヲ得ヘシ〔一千七百九十年七月二十日船員規則ヲ参照スヘシ〕

前上ノ場合ニ於テハ郡裁判所ノ判事若クハ民政官吏或ハ合衆國委員ニ於テ船長ニ対シテ召喚状ヲ發シ之ヲ其面前ニ召喚シ而シテ海上裁判所ノ法則ニ従ヒ給料償却ノ為メ之ヲ發セシメタル所以ヲ弁明セシムヘキモノトス但シ此召喚状ハ誓書或ハ訴状ヲ以テ其訴訟ヲ起スヘキ権アル所以ヲ明認シタル上ヘ發スヘキモノトス

該令状ノ復命日ヲ以テ船長出頭セサルトキハ無論其訴訟正当ナル証書ヲ共フヘキモノトス

若シ船長出庭シタルトキハ船長ニ於テ該給料ハ既ニ償却シ或ハ他ニ約定アリ或ハ裁判所ニアラサル場所ニ於テ既ニ此争訟ヲ決定シタル所以ヲ弁明スヘキモノトス

若シ之ヲ為サヽルトキハ民政官吏ニ於テ海上令状ヲ發スルニ足ルヘキ理由アルノ証書ヲ附共

ス其証書ハ訴状ト共ニ書記ヘ差出シ書記ハ船
舶ニ対シ令状ヲ發シ而シテ海上裁判所ノ法則ニ
從ヒ正当ニ之ヲ判決スヘキモノトス
前上ノ如ク既ニ訴訟ヲ開始シタル際同航海ヲ
為シタル他ノ船員モ亦同様ノ訴訟ヲ為サント
欲スル件ハ既往ノ手続ヲ更ニ履行スルニ及ハ
ス願書ヲ以テ其請求ノ如何ヲ開陳スルニ於テ
ハ其訴訟ニ連合スルヿヲ得ヘシ此場合ニ在テ
ハ其願書ハ前ノ訴状ニ添付シ置クヘキモノト
ス
此ノ如キ手続ヲ為シタル上ハ通常ノ原告人ト
同視セラレ而シテ其各人ノ名ヲ以テ其判決ヲ受
クヘキ者トス是即チ一種特別ノ権ヲ船員ニ與
ヘタル所以ナリ
此場合ニ於テハ此原告人ヲ称シテ合同原告人
ト云フト雖モ連合原告人トハ之ヲ称セサルナ
リ又此原告人ハ互ニ証人ト為ルヿヲ得ヘシ
又訴訟事件ハ各自ニ之ヲ証明シ且ツ各自ニ之
ヲ訊問シ各自ニ判決ヲ與フヘキモノトス但シ
請求金額上訴ヲ許スヘキ額ナルキハ格別ナリ
トス
○以上掲クタル手続ハ即チ商人船員使役条例
ト称スル法律ヲ以テ定メタル所ナリ但シ此法
律ハ我カ海軍ノ使用ニ供セサル船舶ト雖モ適
用スヘキモノト信認セリ
今該法律ニ依レハ其第一第二第三節ハ大船及

ヒ特別ノ航海ニ係リ他ノ数節ハ大小ノ船舶及ヒ船員ノ事ニ関セリ而シテ其各条ニ記載シタル諸般ノ明文ハ何ナル場合ト雖ドモ之ヲ適用シテ其効力ヲ得セシムルノ趣意ニ出テタル者ノ如シ〔一千七百九十年七月二十日船員規則及ヒ一千八百四十六年ノ法律ヲ参照スヘシ〕

此法律ニ基キ新約克南部地方ニ於テ施行スル所ノ法律ノ如何ハ「ベッツ」氏訴訟法ニ明瞭ニ説明セルカ故ニ就テ観ルヘシ

一千八百四十六年ノ法律ハ帆桅或ハ蒸氣機関ヲ具ヘスシテ運河ヲ航通スヘキ小舟ニ乗込ミタル船員ニ於テ其給料ヲ訴フヘキ場合ニハ之ヲ適用セサルモノトス

新約克南部地方ノ老練判事ハ訴訟ヲ速断シ且ツ費用ヲ減省スルノ目的ヲ以テ一千八百三十八年中一種簡易ナル訴訟手続ヲ定メ何ナル場合ト雖ドモ五十弗以下ノ訴訟ニ在テハ上訴ヲ許サヽルヿト為セリ但シ此法ハ全ク其地方ニ限ルモノナルヲ以テ敢テ茲ニ詳説スルヲ要セス」然レトモ若シ之ヲ知ラント欲セハ即チ附録中ニ掲ケタル該地裁判所規則ニ就テ見ルヘシ又此規則ノ明解ヲ得ント欲セハ須ク「ベッツ」氏訴訟法ヲ参照スヘシ

又簡易召喚状及ヒ茲ニ所謂簡易法ヲ施行シタル已来実際頗ル其費用ヲ減省スルニ至レリト雖モ議院或ハ最上裁判所ニ於テ海上裁判ノ方

法及ヒ海上貿易ノ理由ヲ充分討究シ更ニ一層費用ヲ減省セラレンヿヲ希望スル所ナリ

○第三十章　戰利ニ係レル訴訟ノ事

○捕獲シタル物件ヲ賣却スル以前先ツ其戰利ニ屬スベキモノナルヤ否ヤヲ公正ナル裁判處分ヲ以テ判定セサルヘカラス即チ其物件ノ關係者ヲ審問セサルヘカラス

此裁判ハ海上裁判所ニ於テ萬國公法ニ依テ行フヘキ任アリトス而シテ此管轄裁判所ハ即チ其捕獲者ノ屬スヘキ國若クハ政府ノ設立シタル裁判所ヲ以テ相當トス〔海上裁判所規則第十二条ヲ參照スヘシ〕

我カ合衆國ニ在テハ独リ郡裁判所ノミ戰利事件ノ始審裁判權ヲ有スルモノトシ即チ戰利事件ヲ判決スルハ該裁判所職制ノ一部ヲ占ムルモノトス

嚮キニ戰亂以來裁判所ニ在テハ戰利事件ヲ審理スヘキ委員ヲ選任スヘキ者ト定メタリ〔八百六十四年六月三十日ノ法律第五条及ヒ第六条ヲ參照スヘシ〕

此委員ハ即チ裁判所ノ官吏ヨリ選拔スルモノニシテ且ツ其余令及ヒ管理ニ從フヘキモノトス

又該委員ハ通常ノ訊問法ヲ以テ証人ヲ審訊シ且ツ法律若クハ裁判所ニ於テ委員ニ附與シタ

ル此他ノ職務ヲ行フヘキモノトス

委員トシテ為ラサル裁判所ノ官吏即チ郡代言人及

記及ヒ「マルミヤル」ハ通常ノ場合ト等シク戦利事

件ニ関スル職務ヲ行フノ任アルモノトス

又タ戦利事件ヲ審判スルニ当テハ先ツ一ニ証

拠ノ有無ヲ問定シ而シテ其証拠ニ依テ其曲直ヲ

判定セサルヘカラス所謂証拠ハ即チ其船舶及

ヒ船舶内ニアル書類及ヒ捕獲ノ当時現ニ其船舶

ニ乗込ミタル船長、士官其他ノ者ノ宣誓上ノ口

供ニ依ラサルヘカラス此事タル蓋シ戦利法ヲ

施行スヘキ原則トナルヘキモノナリ

又戦利事件ニ就テハ慣例法上ノ手続及ヒ証拠

法ヲ適用セサルモノトス故ニ捕獲ノ当時其捕

獲者ハ証拠ノ為メ其捕獲船舶ニ現在スル書類

ヲ保存シ且ツ其目録ヲ作リ且ツ審問ヲ受ル為

メ其船舶ニ乗込ミタル船長及ヒ重ナル官吏及

ヒ船員ヲ引致スヘキ任アルモノトス（一千八百

六十四年六月三十日ノ法律第一条ヲ参照スヘシ）

凡ソ戦利物件港内ニ到着シタル時ハ其捕獲者

ニ於テ速ニ其捕獲ニ関スル証人ヲ審問セラルヘ

キノ通知ヲ郡裁判所判事若クハ戦利委員ニ

送ルヘキモノトス（戦利規則第二条ヲ参照スヘシ）

此ノ如キ証人ハ戦利委員ニ於テ通常ノ訊問法

ニ依リ書面及ヒ誓詞ヲ以テ審訊スヘキモノト

ス但シ此訊問ニ依テ戰利事件ノ曲直ヲ判別ス
ヘシ
又此訊問書ハ裁判所ノ命令ニ依テ筆記公告ス
ヘシト雖モ預メ其記人ニ之ヲ知ラシメサルヘ
カラス
又證人ハ代言人ニ音信ヲ通シ或ハ其指揮ヲ
受ケ得ス
又証人ハ各別ニ委員及ヒ訴訟関係者ノ代理人
ノ面前ニ呼出スヘキモノトス但シ委員ハ之ヲ
處分スヘキ主管者ニシテ且ツ証人ニ対スル恐
喝詐偽ヲ防護スヘキ任アリトス
又委員ハ通常訊問法ノ外他ノ方法ヲ用フル權
カナク且ツ各人ヲシテ充分答弁セシメサルヘ
カラス
証人ニ於テ全ク答弁ヲ拒絶シ或ハ充分答弁ス
ヘキヿヲ肯ンセサルトキハ委員ヨリ其事由ヲ裁判
所ヘ証明セサルヘカラス（戰利規則第十二条第十
三条第十四条第十五条及ヒ第十六条ヲ參照ス
ヘシ）
又証人ヲ訊問スルニ当テハ刑審法ヲ用フルヲ
許サス故ニ此訊問ヲ名ケテ豫備訊問ト称スル
ナリ
又巡捕船長ハ捕獲船ニ於テ発見シタル諸般ノ
書類ヲ詐偽強暴ヲ用フルナク其船船ヲ取押ヘ
タルヿヲ記シタル誓書ト倶ニ戰利委員若クハ
其一名ヘ差出スヘシ（一千八百六十四年六月三

十日ノ法律及ヒ戦利規則第八条第九条及ヒ第十条ヲ参照スヘシ

一 証人吟味ヲ終ヘタル時ハ速ニ各証人及ヒ委員若シクハ其一名ヲシテ其申立書ニ記名セシムヘキモノトス然ル後之ヲ封緘シ而シテ捕獲人ニ於テ未タ差出サリシ所ノ諸ノ書類ト倶ニ之ヲ相当ノ郡裁判所ヘ送致スヘシ〔戦利規則第十一条及ヒ第二十条ヲ参照スヘシ〕

此証拠ヲ以テ未タ充分セサルカ又ハ更ニ之ヲ要スル時ハ裁判所ハ隨意ニ其他ノ証拠ヲ徴スルヿヲ得ヘシ

又裁判所ハ相当ノ情願ニ依リ積荷ノ陸揚ヲ許可シ而シテ禁制物ノ有無ヲ調査シ或ハ船舶又ハ積荷ノ模様ヲ確認シ或ハ其船舶ノ航海ノ趣意ヲ確認スル為メ船舶ヲ閲キ而シテ検閲スルヿヲ得ヘシ

二 必要ナル証拠書類及ヒ訊問昏ヲ裁判所ヘ送致シタル上ハ裁判所ニ在テハ遅滞ナク之ヲ判決スル為メ其捕獲者ヲ裁判所ヘ呼出スヘキ任アリトス若シ此場合ニ於テ出庭セシメサルトキハ原告人ハ之ヲ請求スルヿヲ得ヘシ〔戦利規則第二十三条ヲ参照スヘシ〕

凡ソ戦利事件ノ判決ヲ請フノ手続ハ物権ノ訴訟手続ニ従ハサルヘカラス故ニ

若シ内國ノ船舶合衆國ノ名ヲ以テ捕獲ヲ為シタル時ハ合衆國代言人ニ於テ其訴状ヲ郡裁判所ヘ提出スルヲ以テ之ヲ開始スルモノトス〔一千八百六十四年六月三十日ノ法律第四条ヲ參照スヘシ〕

又人民私ニ捕獲シタル場合ニ在テハ其船長ハ代言人ヲ使用シ而シテ自身及ト其他ノ捕獲人ニ代テ出訴セシムルモノトス

其訴状ニ依リ召喚状及ト差押状ヲ「マルシヤル」ヘ發シテ其物件ヲ差押ヘシムルモノトス但シ召喚ニ関スル通知ハ即チ公告法ヲ以テ為スヘキモノトス〔戦利規則第二十四条第四十三条及ト第四十四条ヲ參照スヘシ〕

令状ノ復命期日ニ当リ通常ノ公布ヲ為シタルモ請求人其請求書ヲ差出サス一人モ出庭スル者ナキトキハ欠席者ハ総テ懈怠ノ記入ヲ受ケ而シテ裁判所ニ於テハ其証拠ヲ審案シテ其判決ヲ為スヘシ然レトモ通常令状ノ送達ヲ為シタル後一ケ年一日ヲ経サル間ハ物件ヲ處置スルヿヲ得サルモノトス

前上ノ期限経過シタルモ猶ホ請求者ヲ差出ス者ナキトキハ其物件ノ處分ニ着手シ而シテ最初差押ヘタル者ヲシテ永ク其

所有者タラシムヘキノ判決ヲ為シ而メ之カ分流ヲ行フヘキモノトス

四

関係者ニ於テ捕獲ノ事ニ関シテ争論ヲ起シ或ハ其捕獲物件ノ返還ヲ求メント欲スルトキハ召喚状送達已前或ハ審問期日ニ至ラサル已前ニ於テ其請求書ヲ裁判所ヘ差出スヘシ

其請求ハ関係者現在ノ場合ニ在テハ自身又不在ナルトキハ船長或ハ船主ノ代理人ニ於テ之ヲ起スヘキモノトス〔戦利規則第四十二条ヲ参照スヘシ〕

外国人ハ此請求ヲ為スヲ得ス〔戦利規則第四十二条ヲ参照スヘシ〕

又請求書ハ其請求ヲ起シタル事由ヲ簡短ニ記載シタル誓書ト倶ニ差出スヘキモノトス即チ船積又ハ捕獲ノ当時其物件ハ請求者ノ所属タリシ所以ヲ明示シ若シ又特別ノ模様アルトキハ之ヲモ亦附記スヘキモノトス

又誓書ハ其関係者其裁判所ノ管内ニ在ルトキハ自身ニ誓言スヘキモノトス若シ其地方ニアラサルカ又ハ其裁判所ヨリ遠ク距リタル地方ニアルトキハ代理人ヲシテ誓言セシムルヲ得ヘシ〔戦利規則第四十二条ヲ参照スヘシ〕

五

審問ノ上裁判所ニ於テ其物件ヲ返還ス

ヘキ判決ヲ下シ而シテ裁判所ニ於テ別ニ其物件ヲ保存シタルトキハ其引渡ニ関スル令状ヲ請求者ニ対シテ下付スヘキモノトス

若シ其物件ヲ公賣シ而シテ其代價ヲ裁判所ニ保存シタルトキハ其代價ノ引渡ニ関スル令状ヲ発スヘキモノトス

又捕獲ノ理由曖昧ナルカ又ハ捕獲者ニ於テ不正ノ所為アルニ因リ其捕獲者ニ対シ損害賠償ノ言渡アリタルトキハ裁判所ハ委員ヲシテ之ヲ徴收セシムヘシ（戦利規則第四十九条及ヒ第五十条ヲ参照スヘシ）

費用ハ裁判所ノ意見及ヒ捕獲ノ理由如何ニ従テ定ムヘキモノトス若シ更ニ訴拠ヲ徴シタルトキハ其費用ヲモ捕獲者ヨリ徴收スルヿヲ得ヘシ

若シ又審問ノ上裁判所ニ於テ其捕獲果シテ正当ト認メタルトキハ其物件ニ対シ分派ヲ受クヘキ権アル者ヲシテ申立ヲ為サシメ此申立書ニ依リ其分派ノ判決ヲ為スヘキモノトス（一千八百六十四年六月三十日ノ法律第九条ヲ参照スヘシ）

六

凡ソ戦利事件ニシテ其争訟金額二千弗以上ナルトキハ郡裁判所ヨリ最上裁判所ニ上訴ヲ為スヿヲ得ヘシ此他ノ場合ニ

在テハ郡裁判所判事ヨリ其判決ハ緊要ナル事件ニ係ル旨ヲ記シタル証眞ヲ差出スニアラサレハ之ヲ起スヿヲ得サルモノトス

此上訴ハ其判決ヲ下シタルヨリ三十日以内ニ起スヘキモノトス但シ特別ノ事情ニ因リ裁判所ニ於テ豫メ其期限ヲ猶豫シタルトキハ格別ナリトス〔一千八百六十四年六月三十日ノ法律第十三条及ヒ戦利規則第五十一条ヲ参照スヘシ〕

○第三十一章　審問ノ事

○審問ノ準備整ヒタルトキハ其審問ヲ開クヘキ地方ニ於テ制定シタル規則ニ従ヒ其審問ノ通知ヲ為スヘキモノトス但シ其規則ハ各州ニ依テ其趣ヲ異ニシ更ニ一定ノ規則ナシトス

原告及ヒ請求者或ハ答弁人ハ何レモ皆訴訟人ニシテ此等ノ者ハ其訴ヲ公告シテ其審問ヲ開ヲ得ヘシ

凡ソ被告人ハ出廷ノ上訴状ニ対スル異議申立昏或ハ答弁昏ヲ以テ其訴訟ヲ弁論シタル場合ニアラサレハ審問ヲ受ケ或ハ証拠ヲ差出スヿヲ得サル所以ハ既ニ論述セリ故ニ若シ被告人ニ於テ之ヲ為サヽルトキハ裁判所ニ於テ原告人ノ差出シタル証拠ニ依テ審問判決ヲ遂クヘキモノトス

然レモ若シ之ヲ答弁スヘキ懈怠全ク其通知ヲ

知ラサルカ又ハ其他充分ノ理由ニ出テタルトキハ裁判所ハ其訴状ヲ受理シ而メ其裁判ヲ行フノ手續ニ従事セサルヘカラス

前上審問ノ際若シ関係者一方ノ者出廷セサルトキハ相手方ハ恰モ其申立ヲ認可セラレタル場合ニ於テ受ルト同一ノ判決ヲ受ルヿヲ得ヘシ

若シ止ムヲ得サル事由ニ因リ一方ニ於テ延期ヲ請ヒタルトキハ判事ニ於テ之ヲ許否スヘシ但シ何ナル事件ト雖モ判事ノ隨意ニ任シタルヲ以テ其期限ノ長短ヲ定メ或ハ相当ノ期約ニ従ハシムルヿヲ得ヘシ

凡ソ海上事件ヲ処分スルニ当テハ証人ハ往々一所ニアラサルモノナリト雖モ其便益タル恰モ関係者ノ必要ナルト等ク裁判所ニ於テ審問ニ附シタル事件ヲ判決スルニ頗ル欠クヘカラサル影響ヲ与フルモノトス

故ニ裁判所ハ時トシテ正当ノ順序ヲ踐マスシテ原被一方又ハ双方ノ現在証人ノ口供ヲ取ラシカ為メ審問ヲ開キ而メ更ニ他ノ証人ヲ審問シ然ル後其審問ヲ完了スルノ必要ナル場合ニ当テハ多少ノ時間其審問ヲ延期スルヿアルヘシ

又時宜ニヨリ証人ノ口供ヲ取ルモ尚ホ代言人ノ弁論ヲ聽クヿヲ必要トスルトキハ審問ヲ他日ニ延期スルヿヲ又場合ニ依リ延期ヲ請求スル者裁判所外ニ於テ証人ノ申立書ヲ録取スル

フヲ協議シ或ハ訴人ノ申立タルフヲ認可シタルトキハ之ヲ以テ其審問ヲ延期スルフヲ得ヘキモノトス

凡ソ海上裁判所ノ権力ヲ施行スルニ当テハ須ク関係者及ビ証人ノ模様ニ従ヒ其便益ヲ謀リ毫モ傷害ヲ加ヘサルヲ以テ原則トスルカ故ニ該裁判所ニ在テハ慣例裁判所ノ頗ル貴重スル要件及ビ陪審吟味ヲ行フヘキモノトス

海上裁判所ニ於テ裁判ヲ下スニ必要ナル所謂事実ノ充分ナル証明及ビ弁論昏ニ記載シタル事実ノ正否及ビ法律ト事実トノ抵觸ハ往々該裁判所ニ於テ認定スルフ能ハサルフアリ此場合ニ当テハ即チ陪審ヲ要スルモノトス而メ之ヲシテ善悪邪正ヲ判別セシメ以テ詐偽巧弁ヲ逞スル者ヲ説破セシムルモノトス但シ疑義決シ難キ場合ニ於テ迅速ノ決議ヲ要スルトキハ格別ナリトス

又海上訴訟ハ弁明及ビ証拠昏類ニ従テ其判決ヲ下スヘキモノトスルカ故ニ其証拠ト弁明トハ互ニ相符合セサルヘカラス但シ其弁明ノ如何ハ即チ弁論昏中ニ明記スヘキモノトス

故ニ審問ノ際裁判所ニ於テ第一ニ注意スヘキ事件ハ即チ弁論昏ニアリトス

原告代言人ハ簡明ニ其訴訟ノ事由及ビ弁駁ノ所以ヲ記載シ而メ其訴状ヲ朗讀スヘシ又被告代言人ハ其答弁昏ヲ朗讀シ而メ若シ別ニ弁駁

昏アルヰハ各関係者ハ相互ニ自己ノ弁論昏ヲ朗讀スヘキモノトス

又慣例裁判所ノ審問ニ於テ陪審ノ未熟ニ因リ必要トスル所謂実際上ノ審問ハ海上裁判所外ニ於テ之ヲ行フヘキモノトス

所謂弁論昏ヲ朗讀シタル上ハ敢テ人定律ニ束縛セラルヽコトナク各訴訟上遵奉セサルヘカラサル通常ノ順序ニ従テ証拠昏類ヲ差出スヘキモノトスルヲ以テ時トシテ各関係者ヲ陪審吟味ニ附スルコアルヘシ

又判事ハ証人召喚及ヒ再召喚ノ順序及ヒ其訊問ノ方則ニ関シテ其意見ヲ施スヘキモノトス

○証拠ノ事

○裁判所ヲ開設シタル州ノ法律ハ証人ノ適否ニ関スル判決ヲ行フヘキ規則ニ適用スヘキモノトス又其適否ニ関スル証拠上諸般ノ異議ハ審問ノ際之ヲ為サヽルヘカラス（一千八百六十二年七月十六日ノ法律ヲ参照スヘシ）

○弁論昏ヲ以テ争訟事件ノ証拠ト為スニハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ正当トスル乎ノ問題ニ付テハ即チ左ノ場合ニ限レルカ如シ即チ若シ二名ノ証人又ハ二箇ノ条件及ヒ一名ノ証人ノ答弁各々齟齬セサルトキハ訴状ニ記載シタル諸件ハ総テ正実ナリト認メサルヘカラス但シ此規則ハ「チャンセリ」廳ニ於テ適用スヘキモノニテ海上裁判所ニ在テハ之ヲ適

用セサルモノトス

凡ソ訴状ニ對スル答弁書ハ其訴状ニ比スレハ其証拠ノ効力稍々薄弱ナルモノトス

又弁論書ハ普通ノ言語ヲ以テスルトキハ之ヲ証拠トスルヿヲ得スト雖モ誓言ヲ用ヒテ其事実ヲ弁明シタルトキハ裁判所ニ在テ之ヲ懇切ニ審問スヘキ義務アリトス

又弁論書ハ裁判所ノ意見ヲ左右スヘキ影響ヲ及ホスモノニアラスト雖モ苟モ精密ノ確証ヲ提出スル場合ニ在テハ弁論書ノ影響果シテ之ニ及フヿアルヘシ

○質問ニ対スル答弁書○各関係者ニ対シ質問ノ権ヲ附與シタルハ関係者ヲシテ裁判所ヘ臨

マシムルノ方法ニシテ即チ審問ノ際疑義決シ難キ証拠ヲ更ニ明瞭ナラシムルノ大便益ヲ與フルモノトス

既ニ論述シタル如ク関係者ハ事実上他ノ一方ノ者ニ質問書ヲ送ルヿヲ得ヘシ但シ此質問書ハ訴訟ヲ維持シ或ハ答弁ヲ固守スルノ要アルモノトス又質問ヲ受ケタル者ハ書面ヲ以テ諸般ノ質問ヲ答弁スヘキ義務アルモノトス但シ其答弁書ヲ以テ一方ノ者ヲ罪科ニ陥シ或ハ財産ヲ没收セシムルニ至ルトキハ格別ナリトス

此ノ如キ特別ノ質問ニ對スル答弁書ハ審問ノ際各関係者ニ対シテ証拠ノ力ヲ有スルモノトス（海上裁判所規則第二十三条第三十一条及ヒ

第三十二条ヲ参照スヘシ

○仮申立書ハ合衆国各裁判所ニ在テ委任状若クハ訊問状ヲ發セスシテ仮申立書ヲ録取スル場合ニ於テ適用スヘキ為メ議員決議ヲ以テ定メタル規則ハ頗ル訴訟人ノ便益ヲ與フルモノトス

訴申立書ハ往々一方ノ関係者欠席ノ際録取スルヿアリト雖モ此場合ニ在テハ其正否ヲ鑑定セシメサルヘカラサルヲ以テ其者ノ便益ト為ルヘキ推測ヲ下スヿヲ得サルノミナラス之ヲ確証ト看做スヿヲ得ス但シ法律ノ趣意ニ従テ之ヲ録取シタルトキハ格別ナリトス

民政官吏ニ附与シタル権力ハ特別ニシテ一種ノ制限ヲ設ケタリ而シテ此権ヲ行ハサル可カラサル所ノ事由ハ即チ証拠書類面ニ明示シ口頭証拠ニ依ルヿヲ得サルモノトス（一千七百八十九年ノ司法条例ヲ参照スヘシ）

前上ノ申立書ハ左ノ場合ニ於テ要スルモノトス

合衆国各部ニ於テ出訴中各人ノ口供ヲ必要トスル場合ハ左ノ如シ

一　審問ノ場所ヨリ一百「マイル」以下ノ地ニアル時

二　審問以前一百「マイル」以外ノ海路ヲ航シ或ハ一百「マイル」以外ノ地ニ出発セントスル時

三　死去セントスル時

四　病弱ナル時

又左ニ記列シタル官吏ノ面前ニ於テ之ヲ録取スルモノトス

一　合衆国各裁判取ノ判事或ハ最上裁判所ノ大法官判事

二　市尹或ハ民政官吏

三　合衆国各地方裁判所或ハ「コムモンプリース」廳ノ判事但シ関係者ノ代言代弁人ト為ラサル者或ハ訴訟事件ニ関係ナキ者ニ限ルモノトス

四　合衆国委員（一千八百十七年三月ノ法律ヲ恭照スヘシ）

又申立書ハ左ノ方法ヲ以テ録取スヘキモノトス

申立書ヲ録取スヘキ民政官吏或ハ官吏ヨリ相手方ニ対シ之ヲ録取スル当時出廷シ而メ訊問ヲ受クヘキ旨ヲ記シタル通知ハ之ヲ作リタル上先ツ相手方或ハ其代言人ニ送達スヘキモノトス若シ此等ノ者之ヲ録取スル地ヨリ一百「マイル」内ニ住居スルトキハ其通知ヲ受ケタルヨリ出廷マテ二十「マイル」毎ニ一日ノ猶豫ヲ与フルモノトス

又海上民事ノ訴訟或ハ其他差押事件ノ場合ニ於テ若シ相手方ノ氏名ヲ掲ケサル訴状ヲ差出シ而メ各年書ヲ差出ス前証人申立書ヲ

必要トスル件ハ差押ノ当時訴訟物件ヲ現ニ占有シタル者ニ前上ノ通知ヲ送ルモノトス

（原告人ニ於テ其氏名ヲ認知シタル場合ニ限ル）（一千七百八十九年ノ司法条例第三十条ヲ参照スヘシ）

前上ノ通知状ハ筆記ノ上送達スヘキモノトスルヲ以テ如何ナル場合ト雖モ書面ヲ以テ之ヲ通知スヘキモノトス但シ其書中ニハ訴訟ノ名義或ハ確実ニ其理由ヲ記載スヘシ

又民政官吏ヨリ相手方ニ送達セサルヘカラス故ニ民政官吏ニ於テ職務ヲ以テ之ニ記名シ而ノ其送達ヲ受クヘキ者ノ氏名ヲ載スヘシ即チ人権ノ場合ニ於テハ其申立書ヲ求メタル者ノ相手人ニ之ヲ送達シ物権ノ場合ニ係ル件ハ答弁書ヲ差出ス以前訴状中ニ指名シタル被告人或ハ物件ノ所有者或ハ占有者ニ送達スヘキモノトス但シ答弁書ヲ差出シタル後ニ在テハ被告人ニ之ヲ送達スヘシ

若シ訴状中此等ノ氏名ヲ載セス且ツ未タ答弁書ヲ差出サヽルトキハ其物件ヲ差押タル当時現ニ其物件ヲ占有シタル者ニ送達セサルヘカラス

前上ノ各人ハ裁判所ノ公廷ニ召喚シ而メ証言セシムルト同一ノ方法ヲ以テ召喚陳述セシムルモノトス

此場合ニ於テハ普通ノ方法ニ従ヒ普通ノ証人

呼出状ヲ以テ召喚スヘシ若シ出頭スルヿヲ拒ミ或ハ怠ルヽハ民政官吏ハ右呼出状ヲ正ニ送達シタルノ証ヲ認メタル上差押状ヲ発シテ其者ヲ引致セシムルヿヲ得ヘシ

前上ノ呼出状ハ証人ニ送達スヘキモノトス但シ其証人裁判所ヲ開設シタル地ヨリ一百「マイル」以内ノ地ニ住居シタル時ニ限レリトス

凡ソ証人申立ヲ為スニ当テハ謹テ訊問ヲ答弁シ而メ全ク正実ニ陳述スヘキ旨ヲ誓言スヘキモノトス

又申立書面ニ訴訟ノ理由及ヒ官吏職務上ノ事件ヲ記入シタル上ハ即チ正当ノ書類ト看做スヘシ

又証人若シ出頭シタルヽハ原被両造或ハ其代言人ニ於テ之ヲ訊問シ若シ欠席者アルヽハ民政官吏ハ精密ノ訊問ヲ遂ケ以テ事件ノ正否ヲ認定スヘシ

証人ノ申立書ハ民政官吏或ハ証人ニ於テ其面前ニテ録取シ而メ証人ヲシテ之ニ記名セシメ然ル後民政官吏之ニ其職務上ノ誓詞ト日附ヲ記載スヘシ且ツ自ラ之ヲ裁判所ニ差出スマテハ已レノ手ニ之ヲ保全シ或ハ民政官吏ハ証人ヲシテ申立ヲ為サシメタル理由即チ其証人ハ審問ノ地ヨリ一百「マイル」以外ノ地ニ住居シ或ハ将ニ航海セントスル等ノ事及ヒ相手方ニ対シ出廷ノ期日ヲ記シタル通知状ヲ送達シタ

ル旨ヲ記シタル証書ヲ添フルヿヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ実際其通知状ノ謄本ヲ添フルモノトス

又民政官吏ヨリ相手方ニ送ルヘキ通知状ニハ証書ト等ク証人申立ヲ要シタル理由ヲ明記スヘシ若シ之ヲ掲ケサルトキハ吏ニ他ノ証拠ヲ掲ケ其欠典ヲ補フヿヲ得サルモノトス

若シ又其通知状ヲ送達セサルトキハ之ヲ送達セサル理由ヲ明示スヘキモノトス又官吏ハ其訴訟ノ代言代書人ニアラス或ハ関係者タラサルヿ及ヒ其申立書ハ証人又ハ官吏ニ於テ之ヲ録取シ而シテ証人ヲシテ記名セシメタルヿヲ明記スヘキモノトス

前上ノ書類数葉ニ及フトキハ正当ニ之ヲ附着シ置キ其確実ヲ失ハシメサルヲ必要トス而シテ民政官吏之ヲ封シ而シテ其訴訟ヲ受理シタル裁判所ヘ送致シ之カ開封ヲ為スマテハ封ノ保存セサルヘカラス但シ此封書面ニハ訴訟ノ名義ト証人申立書ナル文字ヲ附シ而シテ郵便又ハ人ヲ以テ之ヲ送達スヘキモノトス

書記ニ於テ之ヲ領収シタル上ハ速ニ其受取証書ヲ交付シ而シテ之ヲ裁判所ヘ差出シ且ツ裁判所ノ記録中ニ其事由ヲ記入シ而シテ其申立書ヲ整頓シ且ツ之ヲ求メタル関係者ノ代言人ニ其旨ヲ通知スヘシ（附録書式ノ部ヲ参照スヘシ）

○新約克南部地方ニ設置シタル郡裁判所ノ普

通規則ニ依レハ申立書ヲ差出シタル場合ニ於テハ其旨ヲ相手方代言人ニ通知スヘシ而シテ若シ此申立書ヲ録取シタル方法規則ニ違背シタルフアリ異議ヲ容レント欲スル者ハ四日以内ニ之ヲ為スヘシ若シ四日以内ニ之ヲ為サヽルトキハ其異議ノ効ナキモノトス但シ判事ニ於テ猶豫ノ期限ヲ与ヘタルトキハ格別ナリトス

前上ノ期限内ニ異議ノ申立ヲ為シタルトキハ時宜ニヨリ之ヲ相手方ニ送付シ或ハ審問ヲ開ク

已前更ニ申立書ヲ録取セシムルフアルヘシ（郡裁判所規則第百十三条ヲ参照スヘシ）

郡裁判所ニ於テ訴訟審問ノ際証人ノ訊問ヲ行フタル場合ニ於テ上訴アリタル時ニ当リ其訴訟関係者ニ於テ裁判所ニ対シ巡回裁判所ノ審問ニ於テハ其証人ヲ差出シ能ハサル所以ヲ証明シタルトキハ其証人ノ申立テ書面ニ録取セシムヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ裁判所ノ書記之ヲ録取スヘキモノトス

前上ノ場合ニ於テ書記ノ録取シタル口供ハ即チ仮証拠ト者做サレ而シテ其証人死亡シ或ハ裁判所ヲ閑キタル地ヨリ一百マイル以外ノ地ニ赴キタル場合或ハ年齢疾病或ハ五体虚弱或ハ禁錮等ノ理由ニ因リ到底旅行ニ堪ヘス且ツ裁判所ヘ出廷スルヿ能ハサル場合ニ限リ上訴審問ノ用ニ供スルモノトス

凡ソ法律ニ従ヒ誓言証明シタル申立書ハ即チ

民政官吏ノ職務ヲ尽シ且ツ其証明ノ正実ナルヲ及ヒ其申立ヲ録取シタル方法ノ適正ナル確証ナリトス

然レトモ相手方ハ其申立昏ヲ証拠トシテ朗讀セラルヽ以前何時ヲ問ハス其効力如何ヲ定ムルニ必要ナル諸般ノ事実ヲ証明スルヿ隨意ナリトス

若シ証人申立昏ヲ差出スヘキ求メヲ受ケタル者其証人吟味ノ席ニ臨ミタルトキハ其申立ヲ為スノ当時現ニ目撃シタル訊問法ニ對シ異議ノ申立ヲ為スヘキ義務アリトス

嘱キニ第一巡回裁判所ニ於テ裁判所開廷中録取シタル申立昏ハ仮令ヒ正当ニ之ヲ録取シタル時ト雖モ若シ訴訟関係者及ヒ其代言人現ニ裁判所ニ臨ミタル場合ニアラサレハ之ヲ認可スヘカラス又別段通知状ヲ送ラスシテ証人申立昏ヲ録取シタルトキハ相手方ヲシテ其証人ト対審セシメ或ハ其証人ノ口供ヲ糺駁セシムルノ正理ナル理由ト為スヘキ判定ヲ為セリ故ニ巡回裁判所ニ於テハ多ク此法ヲ施行セリ

又仮令ヒ相手方ノ者一百「マイル」以外ノ地ニ居住スル時ト雖モ若シ一方ノ者ニ於テ証人申立昏ヲ録取スヘキ地ニ相手方代言人ノ住居シタルヿヲ認知シタルトキハ仍ホ之ニ通知スヘキモノトス

凡ソ議院ノ法律ニ従ヒ録取シタル申立昏ヲ訴

司法省

訟関係者ニ於テ朗讀スヘキ場合ニ在テハ其関係者ハ証人ノ死去シタルヿ或ハ合衆国ヲ去リタルヿ或ハ裁判所ヲ開キタル地ヨリ一百マイル以外ノ地ニ在ルヿ或ハ現ニ航海中ナルヿ或ハ年齢疾病或ハ身体虚弱ノ故ヲ以テ到底旅行ニ堪ヘス且ツ裁判所ニ出頭スルヿ能ハサル所以ヲ証明セサルヘカラス

○訊問委任○司法条例第三十条ニ掲ケタル趣意ニ依リ合衆国各裁判所ハ苟クモ裁判ノ延滞或ハ怠慢ヲ防クニ必要ナル場合ニ当テハ通常慣習ニ従ヒ証人訊問ノ委任状ヲ下付スルノ権カアリトス

戦利事件ニ就キ敵国ニアル証人ノ口供ヲ取ルヘキ命令状ハ発スルヿヲ得サルモノトス（一千八百八十九年ノ司法条例第三十条ヲ参照スヘシ）

前上ノ委任願ヲ裁判所ニ為スノ場合及ヒ方法ハ裁判所ノ普通ノ規則ニ於テ規定セラレ或ハ特別ノ場合ニ於テハ裁判所ノ意見ニ任スルモノトス但シ新約克南部地方ニ在テハ裁判所普通ノ規則ヲ以テ規定セリ

凡ソ証人口供ヲ取ルノ委任ヲ受ケタル委員ハ裁判所ヨリ交付シタル特別ノ委任状ニ依テ其任ヲ昏シ而ノ其令状中ニ指名シタル委員ノ外此任ニ充ルヿヲ得サルモノトス

前上ノ委任ヲ執行スル場合ニ在テハ証人ニ対

司法省

シ直接ニ諸般ノ訊問ヲ為シ而ヲ証人ヲシテ一一答弁セシムヘキモノトス

合衆国及ヒ其領地内ニ於テハ証人ヲ委員ノ面前ニ召喚シ而ヲ簿冊及ヒ書類ヲ差出サシメ且ツ附録中ニ掲ケタル彼ノ一千八百二十七年一月二十四日ノ法律ニ依テ陳述セシムルヿヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テ録取シタル証人申立書ハ仮ノ証拠ニアラサルカ故ニ仮証拠ト為ルヘキ申立書ノ場合ニ於テ要シタル諸般ノ事項ハ之ヲ適用スルヲ要セス

○訊問嘱托状○萬国公法ニ依レハ各国ノ戦利所ハ裁判事務ニ就テ互ニ相輔助スルノ義務アリトス故ニ若シ外国ニ居住シタル証人ノ口供ヲ必要トスルハ訴訟ヲ受理シタル裁判所ハ其意ニ従ヒ公然或ハ隠密ニ其証人ノ居住シタル地ヲ管轄スヘキ裁判所ニ令状ヲ送達スルヿヲ得ヘシ

前上所謂令状ヲ名ケテ通常嘱托状ト称スルト雖モ其書面ニ掲ケタル条件ノ差異アルニ従テ或ハ其称呼ヲ変更スルヿアルヘシ

此令状ニ依テ外國裁判所ハ其管轄地内ニ居住スル証人ノ口供ヲ必要トシタル訴訟ハ未決中ナルノ通知ヲ受ケ且ツ法律ヲ以テ定メタル方法ニ従ヒ証人申立書ヲ取リ或ハ之ヲ取ラシムヘキノ依頼ヲ受クヘキモノトス

若シ下等裁判官ニ於テ右嘱托状ヲ受ケタル件

ハ其管轄内ニ於テ使用スヘキ令状ヲ発シテ証人ヲ呼出シ其時ノ形状ニ従ヒ或ハ之ヲ訊問シ或ハ申立ヲ録取スヘシ但シ此場合ニ関スル番類ハ総テ其裁判所ノ番記局ニ於テ整頓スルカ故ニ其番類ノ公正ノ謄本ハ相当ノ証明ヲ附シテ嘱托裁判所ニ送致シ而シテ該裁判所ニ在テハ之ヲ正当ノ証拠ト認ムルモノトス

若シ又最上裁判所ニ該嘱託状ヲ送致シタルトキハ其嘱托ヲ果スヘキ為メ紀問者或ハ委員ヲ選任シ而シテ其番類ハ前上ト同一ノ方法ヲ以テ整頓送致スヘキモノトス

○関係者ノ允ノ関係者ノ適否ハ証人ト等ク州ノ法律ニ従テ定ムヘキモノトス然レトモ救助船負給料及ヒ戦利事件ノ如キ場合ニ在テ別ニ関係者タル者アラサルトキハ苟モ其緊要ナル事実ヲ証明スルヿヲ得ヘキ者ハ何人ト雖モ関係者タラシメサルヲ得サル場合アリトス

此時ニ当リ止ムヿヲ得サルトキハ普通証拠法ニ対スル特例ニ依リ此者ヲ証人ト為シ相互ニ自己ノ便益ト為ルヘキ事実ヲ証明セシムルヿアリトス

該関係者ヲ証人タラシムルヿヲ許サヽル法律ノ備ハリタル地方ニ於テ之ヲ証人トシテ訊問スヘキトキハ其訊問ヲ受クヘキ事件ヲ限リ此限外ノ事件ニ就テハ訊問ヲ受ケサルモノトス

凡ソ船舶ノ船長ハ其船負ニ於テ起シタル給料

ノ訴訟上証人タラシムルヿヲ得ルヤ否ヤニ就テハ往々論議ヲ為スモノアリ且ツ此事ニ関シ彼此抵觸ノ判決ハ実際記録中ニ散見セリ

然レモ実際原則トスル所ノモノハ船長証人ト為ルヿハ他ノ証人ト同一ノ原則ニ従ヒ其適否ヲ定ムヘキモノニテ普通証拠法ノ例外ニ属スルモノニアラストセリ

故ニ海上裁判所ニ於テ受理シタル始審ノ事件ニ就テハ証人ノ適否ニ関スル州法及ヒ既ニ論述シタル例外ノ規則ヲモ併セ適用スヘキモノトス

関係者ノ証拠不充分ニシテ其申立ノ正否ヲ定ムルヿ能ハサル場合ニ在テハ誓詞ヲ以テ他ノ証拠ヲ確実ナラシムルヿヲ得ヘシ蓋シ此規則ハ民法ニ依テ二名以上ノ証人ヲ立ルノ便益ヲ失ハシメタルモノトス依テ実際証人一名ニ於テ事実ノ確証ヲ明示シ能ハサル場合ト雖モ第二ノ証人ヲ許サヽルカ故ニ遂ニ不公平ノ裁判ヲ来スノ結果ヲ免レサルニ至レリ此場合ニ於テ訴訟関係者ハ其証拠ヲ完全ナラシムル為メ誓ヲ為スヿヲ得ヘシ此誓ヲ名ケテ増補ノ誓ト称セリ又此誓ハ海上訴訟上請求シ且ツ許可スルヿヲ得ヘシ

此誓ヲ以テ関係者ハ其年明昏ニ掲ケタル事実ヲ真正ナリト認メタル旨ヲ自ラ確言スヘキモノトス

又或ハ場合ニ於テ関係者ハ自己ノ訴訟ニ就キ自ラ証人タルヿアリ

又昏類ノ捜索及ヒ其消滅如何ハ関係者自ラ之ヲ証明シ而シテ第二ノ証拠ヲ提出セシムルモノトス

又動産ノ訴訟上函中ニ納メタル物量ニ就キ別ニ之ヲ知リタル者ナキトキハ関係者ハ其物量ヲ証明スヘキ証人タルヲ得而シテ其函ノ模様及ヒ所在如何ハ他ノ者ヲシテ証明セシムルモノトス

茲ニ決定ノ誓ト称スル者アリ此誓ハ一方ノ者ニ於テ他ノ者ニ對シ求ムルモノニシテ即チ其誓ニ依テ事件ヲ決定スルモノナリ

相手方ハ此求ヲ肯ンスヘキ義務又ハ再ヒ陳述ヲ為スヘキノ責任アルモノトス

此誓ハ民法ニ於テ衆人ノ明知スル証拠ノ法ニシテマサツセツツ州ノ海上裁判所ニ於テハ常ニ之ヲ用ヒ他州ノ裁判所ニ於テハ一般ニ之ヲ用ヒサルモノヽ如シ然レモ現今施行スル所ノ証拠法ノ改良ニ依リ漸々各裁判所ニ於テ此法ヲ用フルニ至ルハ疑ヒナシトス

証人ノ口供結了シタル上ハ其時或ハ他日ヲ以テ其訴訟ノ弁論ヲ聽クヘシ

此場合ニ於テハ原告代言人ハ通常其依ルヘキ事実及ヒ法律ノ要點ヲ正実ニ陳述シ被告代言人ハ裁判所ニ対シテ之ヲ斥駁ス原告代言人ハ

更ニ其弁駁ヲ論シテ脩結ス於是判事ハ其判決ノ如何ヲ定メ即時ニ之ヲ言渡スヘシ若シ猶ホ疑惑ヲ存シ或ハ未タ尽サヽルヿアルトキハ更ニ再審ヲ開キ熟慮之ヲ言渡スヘキモノトス

証人申立昏ニ對シテ事実及ヒ法律ノ要點ヲ裁判所ヘ申立ルハ代言人ノ職務タルヿ古来ノ慣例ナリトス又弁論ノ際其相当ト思料スル判決ノ案文ヲ裁判所ヘ提出スルモ亦代言人ノ職務ナリトス

又審理上必要ナルトキハ其手續ヲ変更中止シ或ハ延期スヘキ権力ヲ裁判所ヘ与ヘタルハ既ニ前ニ論述シタルカ如シ故ニ審問ヲ結了シタル後至当ノ事由アルトキハ裁判所ハ更ニ他ノ証拠ヲ取ルノ目的ヲ以テ其審問ノ結了ヲ取消スヿヲ得ヘシ

故ニ若シ審理上判事ハ関係者ノ詐偽或ハ証拠ノ不備ニ因リ正当ノ判決ヲ行フ能ハサル所以ヲ認メタルトキハ判事ノ申立或ハ請求ニ従フ此取消ヲ为スヿアリトス

又場合ニ依リ新ナル証拠ヲ発見シ或ハ関係者ヲシテ申立ノ欠漏ヲ補ハシムルヲ必要トスルトキハ其関係者ノ請願ニ依リ此取消ノ許可ヲ與フルヿアリトス

		[illegible]

司法省記錄文庫
保第八百八十八號
内三冊ノ内

米國海事法

司法省

○第三十二章　判決ノ事

○凡ソ訴訟事件ノ審問ヲ遂ケタル上ハ其判決ヲ行フ為メ之ヲ裁判所ヘ移シ裁判所ニ在テハ事実及ビ法律ニ従ヒ原告人又ハ被告人或ハ原被告ノ一人ノ便益ト為リ他ノ数人ノ為メニハ不利ト為ルヘキ判決ヲ言渡シ且ツ場合ニ依テハ関係者ノ全員又ハ一名ニ對シテ裁判費用ヲ課シ或ハ課セサルヿアリトス蓋シ此事タル海上裁判法ニ於テ訴訟事件ノ軽重難易ニ従ヒ頗ル公平不偏ノ処分ヲ要スルモノトス

○凡ソ審問ニ従テ下スヘキ判決ハ分ケテ二種トス即チ豫審或ハ最終ノ判決是レナリ最終ノ判決トハ即チ全体ノ審問ヲ尽シ終リ既ニ裁判所ニ於テハ別段他ニ處分ヲ要セサル場合即チ費用ヲ課シ或ハ課セスシテ訴状ヲ却下シ或ハ費用ノ有無ニ拘ハラス或ル金額ニ関スル判決ヲ下スヘキ場合ノ如キ是レナリ

然レトモ若シ未タ訴状中ニ記載シタル関係者ノ権利ノ有無ヲ確定セス而シテ原告人ニ於テ未タ執行令状ヲ受ケサル以前ニシテ猶ホ未タ裁判所ニ於テ處分スヘキ事務アル場合ニ於テ下スヘキ判決ハ即チ之ヲ称シテ豫審ノ判決トス但シ此判決ト雖モ証拠ニ依テ下スヘキモノトス

○凡ソ人権又ハ物件ノ訴訟上原告人ノ不利トナルヘキ判決ヲ下スヘキ場合ニ於テハ通常其費用ヲ課シ或ハ之ヲ課セスシテ訴状ヲ却下ス

ルヲ法則トス

若シ又金額ノ償還ニ関スル訴訟上原告人ノ便益ト為ルヘキ判決ヲ下スヘキ場合ニ於テ其金額ヲ認定シ難キトキハ其金額償還ノ適否ヲ判決シ而シテ恰モ懈怠ノ場合ト同一ノ方法ニ従ヒ之ヲ委員ニ附シテ其金額ヲ認定セシメ且ツ是ヲシテ裁判所ニ報告セシムルヲ常則トス

今新約克南部地方ニ在テハ数年来ノ経験ニ因リ此ノ如キ場合ニ当リテハ其請求者ノ権利ノ有無ヲ審問スルノミニテ金額ノ精算ハ之ヲ証明セスシテ委員ニ附シテ之ヲ認定セシメ委員ヨリ之ヲ裁判所ニ報告セシムルヲ以テ慣例トス（附録判決書式ノ部ヲ参照スヘシ）

此慣例タル蓋シ裁判所ニ於テ瑣末ノ計算ヲ為シ及ヒ之ヲ確認スルニ必要ナル数多ノ証拠ヲ徴スル為メ多少ノ時間ヲ費スハ実際無益ナルノミナラス訴訟関係者ヲシテ其便宜ニ従ヒ自己ノ証拠ヲ委員ノ面前ニ提出セシムルハ関係者ニ對シ頗ル裨益ヲ與フルモノナリ

○前上所謂委審命令ノ謄本ハ委員及ヒ相手方ノ者ニ送達シ而シテ其委審ヲ行フノ期日ヲ通知スヘキモノトス其期日ハ即チ委員ニ於テ決定スヘキモノトス

委審ノ審問ヲ行フ場合ニ於テハ前キニ裁判所ニ於テ録取シタル口供及ヒ其他ノ証拠書類ヲ收用スヘキモノトス

又口供ヲ作ル ノ法ハ総テ通常ノ審問ト同一ニシテ即チ委員ニ於テ之ヲ録取スヘシ

又委員ハ通常「チャンセリー」廳ノ「マスター」ト同一ノ権力ヲ有シ誓詞ヲ認メ及ヒ訴訟関係者又場合ニ依テハ証人ヲ審訊スルヿヲ得ヘシ

又証人ヲ召喚シ及ヒ証人ノ出頭ヲ証明セシメ且ツ時宜ニ依テハ関係者ヲシテ証拠ヲ提出セシムル為メ審問ヲ延期スルノ権アリ（海上裁判所規則第四十四条ヲ参照スヘシ）

前上ノ審問既ニ終結ニ至リタル上ハ委員ハ其調査シ得タル所ノ結果ヲ裁判所ヘ報告スヘキモノトス

左ニ掲クル所ノ書式ハ即チ所謂報告書ノ書式トス

司法省

新約克南部地方ニ設置シタル郡裁判所ニ於テ

「ウ井リヤム、ロビンソン」ヨリ「バルクリチヤードアルツツル」号及ヒ其船具其他ニ對スル訴訟ニ就キ委員ノ報告

紀元一千八百四十九年九月一日前記ノ訴訟ニ関係シ発シタル命令ニ従ヒ給典品及ヒ修繕ノ為メ原告ニ償還スヘキ金額ヲ算定スル為メ当裁判所ノ委員ノ一名ニ委審ヲ命シ而メ速ニ之ヲ当裁判所ニ報告スヘキ旨ヲ命セリ

故ニ合衆國委員タルジョンダブリウ、子ルソン」タル余ハ茲ニ其報告ヲ為スヿ左ノ如シ

余ハ原告代言人及ヒ請求者代言人ヲ召喚シ而メ各代言人ノ申立ル所ヲ録取審問ヲ遂ケタルニ果シテ訴状中ニ記載シタル如ク給与品及ヒ修繕ノ為メ一百八十八弗十「セント」ノ金額ヲ原告人ニ償還スヘキモノタルヿヲ認ムルモノナリ

一千八百四十九年九月二十日　合衆國委員

ジョン、ダブリウ、子ルソン

ウヰリヤム、ジョンソン

原告代言人

司法省

何ノ誰

又原被一方ノ請求ニ依テハ委員ハ其面前ニ於テ録取シタル口供ヲ詳ニ裁判所ヘ報告セサルヘカラス又常ニ特別ニ之ヲ報告スルヿヲ得ヘシ

○原被一方ノ者委員ノ出シタル報告書ノ主意或ハ認定ニ就キ委員ノ為シタル決断ニ對シテ不服ヲ抱クトキハ訴報告ニ對シ故障ヲ述ルヿヲ得ヘシ但シ報告書特別ニシテ其書面ニ於テ誤謬アルヲ明認シタルトキハ故障書ヲ提出スルヲ要セス（附録報告書ノ書式ヲ参照スヘシ）

左ニ掲クル所ノモノハ即チ報告書ニ對スル故障書ノ書式トス

何某ヨリ何某ニ係ル訴訟

一千八百四十九年九月何日附合衆國・委員「ジョン、ダブリウ、子ルソン」貴下ノ報告書ニ對シ原告人ノ部分ニ係ル故障書

第一　訴委員ハ被告人ヨリ原告人ニ拂渡シタル五十弗二十四「セント」ヲ被告人ノ勾メニ認メサリキ

第二　訴委員ハ修繕入費ノ勾メ契約高ノ外七十七弗ヲ原告人ノ勾メニ認メタリ

第三　訴委員ハ証拠ヲ以テ証明シタル六十弗ノ残額ヲ取ラスシテ原告人ニ償還スヘキ残額ハ一百八十八弗七十「セント」ナルヿヲ報告セリ

原告代言人

司法省

何ノ誰

○前上ノ故障ヲ唱フル者ナキトキハ報告書ヲ出シタル上直チニ之ヲ確定ス若シ故障ヲ唱フル者アルトキハ其故障人ハ其故障書ヲ差出シ而メ之ヲ送達シ而メ後更ニ其事件ヲ審問簿冊ニ登記スヘキモノトス

左ニ掲クル所ノモノハ即チ訴判決書ノ書式トス

何某ヨリ何某ニ係ル訴訟

此事件ハ委審委員「ジョン、ダブリウ、子ルソン」ノ差出シタル一千八百四十九年九月何日附報告書ニ対スル故障書ニ依リ更ニ審問ヲ遂ケサルヘカラサルニ至リ即チ原告

代言人何ノ誰ノ請求ニ依リ各関係者ノ代言人ヲ審訊シタル上裁令ヲ下スヿ左ノ如シ

訴故障書ハ棄却シ而メ訴報告書ハ総テ正確ナルヲ以テ原告人ハ費用ヲ併セテ一百八十八弗十「セント」ノ金額ヲ被告人ニ對シテ請求シ且ツ其執行状ヲ得ヘシ（附録故障及ヒ判決書ノ書式ヲ参照スヘシ）

○凡ソ人権ノ訴訟ニ於テ或ル金額ニ就キ原告人ノ利益ト為ルヘキ判決ヲ下スヘキ場合ニ於テハ通常原告人ハ被告人及ヒ其保証人ニ對シ費用ヲ合算シタル金額ヲ請求シ且ツ其執行状ヲ得ヘキ旨ヲ判決スル法則トス

前上ノ場合ニ於テ州裁判所ノ判決ニ係ルヰハ訴判決ヲ以テ直チニ負債主ノ財産ヲ差押フルノ権アルモノトス但シ此判決ニ係ル諸件ハ総テ衡平法上ノ判決ト同一ノ處分ニ従フヘキモノトス

又物権ノ訴訟ニ於テモ人権ノ訴訟ト同一ノ法式ニ従ヒ判決ヲ下スヲ常則トシ若シ物件ヲ管守シタル場合ニ係ルヰハ訴訟ノ理否及ヒ物件ノ賣却及ヒ其賣買代價ハ裁判所ヘ納付スヘキ旨ヲ判決スルヲ常トス

若シ又保証書ニ依リ前上ノ物件ヲ引渡シタルヰハ判決ノ通知ヲ與ヘタル後一定ノ期限内ニ保証人ヨリ其保証金ヲ裁判所ヘ納付シ或ハ其

保証ニ係ル簡易判決ヲ記入シ而シテ其執行状ヲ発スヘキ旨ヲ判決スヘキモノトス

又物権ノ訴訟ニ於テハ通常人権ニ係ル判決ヲ下スノ法ナシト雖モ若シ証拠ヲ以テ人権ニ係ル請求ヲ為スヘキ権利アルヿヲ証明シタルトキハ原告人ハ物権ノ判決ヲ受ケタル後更ニ人権ニ係ル正當ノ申立ヲ為シ而シテ人権ニ係ル判決ヲ受ルヿヲ得ヘシ

○凡ソ判決ヲ行フタル後ニ至リ偶生ノ事件或ハ過誤失錯ニ依テ其判決ノ失当ナル所以ヲ明認スル場合アリ此場合ニ当テハ海上裁判所ニ於テ之ヲ訂正更改スルノ権アルモノトス

然レトモ前上ノ更改ハ一箇ノ事件ニ就キ全ク明認ヲ欠キタルヨリ生シタル過失誤ヲ訂正スル場合ニ限リ而シテ可成精密ニ其失誤ノ所以ヲ裁判所ニ忠告スヘキモノトス

○費用ノ事

○海上裁判所ニ於テ徴收スヘキ費用ハ総テ裁判所ノ規定スル所トス故ニ此費用賦課ノ法ハ往々不正業ヲ働ク者ヲ罰スヘキ方便ニ供シ且ツ不理ノ訴訟ヲ豫防スルノ術策ト為セリ

又衡平法上ノ判決ニ於テハ時トシテ請求ヲ起シタル者ニ対シ費用ヲ徴收スルヿヲ許サス又時トシテ他人ノ所為ニ依リ訴訟ヲ起スヿヲ眩惑セラレ遂ニ之ヲ起スヿヲ怠リタル原告人ニ対シ之ヲ許スヿアリ

戰利及ヒ救助事件ニ於テ費用ヲ納付セシ上ハ請求者ニ物件ヲ引渡スコトアリ

曩キニ「マサッチユセッツ」地方ニ於テ一難件ニ関シテ裁判所ハ原告人ノ利益ノ為メ費用ヲ併セテ請求金額ノ判決ヲ下シタル場合ニ当リ一種ノ請求ト右負債及ヒ費用ヲ合算シタル請求金額トノ差引計算ヲ認可セシ例アリ是レ蓋シ差引金額ハ負債金額ヨリ多額ナルモ原告人ハ尚ホ費用ノ大部ヲ收得スルコトヲ得シカ故ナリ」

元来費用徴收規則ハ事ニ臨ミ裁判所ノ隨意ニ之ヲ定ムルコトヲ得サルハ昭然タリ一般普通ノ規則ニ於テハ判決ト同時ニ其訴訟ノ費用ヲ定ムルヲ以テ法トスレトモ條理ニ於テ止ムヲ得サルカ或ハ事件ノ至難ナルカ若クハ懈怠ノ所為ニ因リ通常ノ場合ト異ルトキハ裁判所ハ此規則ヲ遵守セサルモ防ケナシトス

又普通ノ場合ニ於テ未タ出訴セサル以前ニ在テ負債ノ返還ヲ求メタルトキハ海上裁判所ニ於テハ費用ノ判決ヲ下ス已前ニ先ツ其請求ノ訟拠ニ依リ衡平上ノ権力ヲ施スヲ必要トスルコト其職制上明カニ要スル所ノモノナリ

又不当ノ請求或ハ不当ノ方法ヲ以テ請求ヲ為シ以テ人ヲ困苦セシムル場合ノ如キハ通常其費用ヲ負擔スルヲ要ス故ニ若シ原告人到底回復シ難キ請求ヲ起シ或ハ不理ナルコトヲ知リテ故ラニ請求ヲ起シ而シテ僅カニ被告人ノ拒絶セ

サル些少ノ金額ヲ回復シ得タル中ハ原告人ハ通常其費用ヲ徴收スルヿヲ得サルモノトス又政府ニ對シテハ費用ノ判決ヲ行ハサルヲ常トス

○謝金ノ事

○一千八百五十三年二月二十六日ノ法律頒布以前ハ海上裁判所ニ於テハ公正ナル謝金表ノ設ケナカリシヲ以テ代言代書人ノ謝金ハ裁判所ニ於テ訴訟手続ヲ規定スヘキ権力ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトセリ然レ𪜈書記及ヒ「マルシヤル」ノ謝金ニ至テハ時トシテ議院ノ決議ニ依テ之ヲ規定シ自余ノ謝金ハ裁判所ノ隨意ニ定ムヘキモノトセリ

故ニ実際ニ於テハ往々頗ル金額ノ差異ヲ生シ一定ノ規則ナキ場合ニ於テハ常ニ慣例及ヒ衡平ノ両州裁判所ニ於テ其金額ヲ均一ナラシムルニ汲々タリ

此欠典ヲ補フ為メ一千八百五十三年ノ謝金表ヲ編成シ以テ尓来代言人、郡裁判所及ヒ巡回裁判所ノ書記「マルシヤル」証人委員及ヒ印刷者ノ報酬金額ヲ一定ニ帰セシヤタリ

此成法及ヒ此法ニ依リ海上裁判所ニ於テ編成シタル謝金表ハ附録中ニ掲載セリ

〔一千八百五十三年二月二十六日ノ法律〕凡ソ海上裁判所ノ費用ニ就テハ実際訴廳ノ手続及ヒ費用ノ因テ生スル所以ヲ熟知セサル者

ニ在テハ往々之カ為メ訴訟ヲ起ス者アリ
訴費用中最モ驚クヘキ巨額ハ獨リ物件ノ管
守料ニアリ是レ蓋シ他ノ裁判所ニ於テハ曾
テ擔任セサル職務ナレハナリ但シ訴管守料
ハ之カ為メ商人ノ本心ヲ以テ拂渡シタル金
額ヨリ超過マルヿヲ得サルモノトス
○凡ソ一訴訟ヲ以テ正当ニ連合セシメタル被
告人ノ数名ニ対シ数様ノ訴訟或ハ一訴訟ヲ以
テ正当ニ連合セシメタル船舶又ハ積荷ニ對シ
数様ノ訴訟ヲ為シタル場合ニ於テハ一訴訟ニ
関スル費用ノミヲ徴收スルヿヲ得ヘシ但シ訴
訟数様ニ渉リ特別ノ原因アル中ハ格別ナリト
ス

又同種類ノ訴訟或ハ同疑問ニ関スル訴訟ニ於
テハ裁判所ハ無要ノ費用ヲ省クノ目的ヲ以テ
其事件ヲ連合マヘキ命令ヲ下スノ権アルモノ
トス
此連合ノ命令ハ一方ノ者ヨリ他ノ一方ノ者ニ
通知ヲ與ヘタル上裁判所ヘ請求シタル場合ニ
限リ発スヘキモノトス
若シ代言人代書人或ハ訴訟事件ヲ管理スヘキ
各人不当ニ其費用ヲ増加スヘキ為メ故ラニ訴
訟手続ヲ重加シタル所以判然タルキハ裁判所
ノ命令ニ依リ此ノ如キ無要ニ増加シタル費用
ヲ擔当セシムルヿヲ得ヘシ
又代言人ノ費用ヲ求ムルノ権利ヲ妨害セント

謀ル者アルトキハ裁判所ハ之ヲ保護スヘキ任ヲ
ルモノトス（一千八百十三年七月二十二日ノ法
律及ヒ一千八百五十三年二月二十六日ノ法律
ヲ参照スヘシ）

○裁判所ハ其法則若クハ原被両造ノ恢議ニ依
テハ至難且ツ細密ナル手續ト雖モ敢テ之ヲ辞
スルヿナク尽サヽルヘカラス故ニ或ハ金額ノ
請求ニ係ラス或ハ相当ノ猶豫ヲ與ヘスシテ訴
訟ノ落着ヲ促シ或ハ判決ノ旨意ニ服スルヿヲ
肯ンセス或ハ償還金額ノ提供ニ吋シ故障ヲ唱
フルカ如キ場合ニ当リ若シ之ヲ裁判所ノ公廷ニ於
テ均シタルトキハ裁判所ニ在テハ須ク注意シテ
其費用ニ係ル判決ヲ下サヽルヘカラス

司法省

前上所謂金額ノ提供ニ就テハ海上裁判所ニ於
テ慣例法ノ厳則ヲ適用スルヿヲ得サルモノト
ス蓋シ即時ノ償還ヲ为スヘキ意アル者ニ於テ
之ヲ償還スヘキノ申立ハ往々正真ノ提供ト認
メ而シテ若シ其提供ヲ肯ンセサルトキハ現ニ其金
額ヲ提出スルヲ要セス

此場合ニ当リ裁判所ハ勉メテ之ヲ調整スルヿ
ニ尽力シ而シテ其事情ヲ審案シタル上其申立ヲ
保全スヘキモノトス然レトモ若シ請求金額ニ足
ラサル金額ヲ提供シタル場合ニ於テ之ヲ肯ン
セサル旨ヲ申立タルトキハ其提供ノ効ナキモノ
ト認定セラルヘシ

前上ノ如ク義務者ノ提供ヲ肯ンセサルトキハ其拒

絶者ハ訴訟費用ヲ求ムルヿヲ得サルモノトス

又場合ニ依テハ其拒絶者ヨリ相手方ノ者ニ費用ヲ償フヿアルヘシ（海上裁判所規則第二百十八条ヲ参照スヘシ）

又海上裁判所ニ於テ損害賠償若クハ訴訟費用ノ一部トシテ代言人ノ謝金ヲ償却セシムルノ慣例アリ

○海上裁判上固有ノ法式ニ依リ往々費用ヲ分課セサルヲ得サル場合少シトセス即チ裁判所ニ於テ関係者数名ニ対シ各別ノ判決ヲ與ヘ其中ノ一名ハ上訴シ他ノ者ハ上訴セサル場合ノ如キ或ハ数人ノ出訴ヲ受ケタル物件ヲ管守シタル場合ニ於テ其管守ノ勿メ「マルシヤル」ニ納ムヘキ謝金ハ仮令ヒ訴訟関係者中此管守ニ関係ナキ者ト雖ヒ共益上之ヲ擔当セサルヘカラサル場合此他之ニ類似ノ場合ノ如キハ裁判所ニ於テ其費用ヲ課ス可キモノトス

此等ノ費用ハ総テ相手方ノ者ニ通知ノ上書記ニ於テ之ヲ賦課スヘキモノトシ而メ若シ之ニ不服ヲ抱クキハ判事ニ上訴シ且ツ此賦課タル敗訴者ニ対スル判決ノ一部ヲ占ルモノトス所謂賦課ノ費用表ハ裁判所ニ於テ之ヲ整頓スヘキモノトス（一千八百五十三年二月二十六日ノ法律ヲ参照スヘシ）

○凡ソ裁判所ニ於テ最終ノ判決ヲ言渡シタル上ハ書記其判決ヲ登記スヘシ但シ其記録ハ即

チ当初出訴シタル時ヨリ最終判決ニ至ルマテニ受理シタル弁論書保証書命令書及ト訴訟ニ関スル証拠書類ヲ順次記載シ以テ其訴訟ノ顛末ヲ明カナラシムルモノナリ

又証人ノ口供及ト証拠書類アルトキハ即チ証拠書類ノ一部トシテ之ヲ精密ニ記録中ニ掲載スヘキモノトス但シ裁判所ノ公廷ニ於テ審訊ヲ受ケタル証人ノ口供ハ判事ノ録取シタル口供ニ依テ之ヲ写出スヘキモノトス

○第三十三章　裁判執行ノ事

○凡ソ金額償還ニ就キ最終ノ判決アリタル場合ニ於テハ原告人ハ被告人又ハ保証人所有ノ財産土地家屋其他ノ不動産中ヨリ其金額ヲ徴收スヘキ旨ヲ「マルシヤル」若クハ其属官ニ命シタル所謂「フサリフアシアス」（官吏ヲシテ被告人ノ財産中ヨリ負債金額ヲ償還セシムル令状ノ名）ノ性質ヲ帯ヒタル執行状ヲ求ムルヿヲ得ヘシ（海上裁判所規則第二十一条及ヒ第四十八条ヲ参照スヘシ）

左ニ記載シタルモノハ即チ執行状ノ書式トス

執行状

亜米利加合衆國大統領新約克南部地方「マルシヤル」ニ命ス

一千八百四十三年十月二十八日新約克南部地方ニ設置シタル合衆國郡裁判所ニ於テ原告人「ヱリサーバルゼス」ヨリ「ラーモン」ヲザルドー」ニ對スル訴状ヲ受理シ之カ審

理ヲ遂ケ即チ去ル七月二十二日ヲ以テ訴
廳ノ判決ニ依リ右「テーモンデザルドー」ハ
原告人ニ対シ訴訟費用ノ外五百二十弗三
十「セント」ノ金額ヲ償還セサルヘカラサル
ニ至リ茲ニ其執行ヲ命スルモノナリ但シ
訴費用ハ訴廳ノ記録ニ依リ一百七十九弗
五十九「セント」ヲ正当ニ賦課スルモノナリ」
故ニ今余輩ハ汝ニ對シ汝ノ管轄地内ニアル
右「テーモンデザルドー」所有ノ財産若シ其
財産ナキトキハ現ニ此令状ヲ受ケタル日又
ハ之ヲ受ケタル後何時ヲ論セス汝ノ管轄
地内ニ於テ同氏ノ現有シタル土地及ヒ家
屋ヲ以テ前上六百八十一弗六十「セント」ノ

司法省

金額ヲ徴收シ且ツ此金額ハ原告人ニ對シ
訴判決ヲ満足セシムル为メ来ル六月一日
ヲ以テ新約克府廳内ニ設置シタル訴裁判
所ニ差出シ而メ汝ハ此令状中ニ掲ケタル
箇条ヲ正当ニ執行シタル旨ヲ従セテ訴裁
判所ニ報告スヘキ旨ヲ命スルモノナリ
一千八百四十四年即チ我カ獨立第六十
八年五月二十七日新約克南部地方郡裁
判所判事「サミユールアル、ベッツ」茲ニ之
ヲ証スルモノナリ

書記

・ゼームス、ダブリウ、メットカルフ

代言人

バル
ベ子デクト
代書人
ジヨンソン

○凡ソ合衆國ノ便益ニ関スル犯行状ハ合衆全國ヲ通シテ其効アリトス然レモ一私人ノ便益ニ係ルモノハ仮令ヒ一州内ニ二箇ノ郡アル時ト雖モ其効ハ一州内ニ止ルモノトス

然レモ何ナル場合ヲ論セス此令状ハ判決ヲ下シタル裁判所ヨリ発出シ亦之ニ復命セサルヘカラス（一千八百二十六年五月二十日ノ法律ヲ参照スヘシ）

物権ノ訴訟ニ於テ曲者及ヒ公賣ノ判決アリタル場合ニ当リ若シ其物件當守中ナルトキハ「ウエシゲシヨンニエキスポナス」官吏ヲシテ被告人ノ令状名ナル犯行状ヲ発スヘキモノトス「ポナス」賍産ヲ賣却セシムル若シ其物件保証書ニ依リ引渡シタル場合ニ係ルトキハ保証人ニ對シテ其保証ノ条件ヲ行ハシメ若シ之ヲ行ハサルトキハ其保証ニ関スル簡易裁判ヲ登記スヘキ旨ヲ命令シ然ル後人権ニ係ル犯行状ヲ発出スヘキモノトス

物件未タ管守中ニシテ「ウエシゲシヨン、エキスポナス」（令状）ヲ発シタルトキハ「マルシヤル」ニ於テ相当ノ公告ヲ為シタル上其物件ヲ賣却シ而メ其代價ハ裁判所ノ書記局ニ納付スル為メ之ヲ書記ノ手ニ差出シ而メ裁判所ニ於テ法律ニ従

ヒ之ヲ處分スヘキモノトス（海上裁判所規則第四十一條ヲ參照スヘシ）

左ニ掲クル所ノモノハ即チ右令狀ノ書式トス

令狀

新約克南部地方云々

亜米利加合衆國大統領新約克南部地方ノ「マ」ルシヤル」ニ命ス

一千八百四十九年三月一日新約克南部地方ニ設置シタル合衆國郡裁判所ニ於テ「ロ」バー」號船舶船具及ヒ什器ニ係ル所ノ訴狀ヲ受理シタルニ其訴狀ニ記載シタル事由アルニ因リ船舶其他ヲ賣却セン「ヿヲ請求セリ

故ニ訴狀ニ基キ訴裁判所ヨリ發シタル令狀ヲ以テ訴船舶ヲ差押ヘ現ニ其令狀ノ効ニ依リ當守中ナリ而メ審理手續ヲ遂ケ一千八百四十九年六月第一ノ火曜日ヲ以テ言渡シタル訴廳ノ判決ニ依リ該船舶船具及ヒ什器ハ法律ニ從ヒ公賣ノ公告ヲ為シタルヨリ六日ヲ経タル上右「マ」ルシヤル」タル汝ニ於テ之ヲ賣却スヘキ旨ヲ命セリ

故ニ該「マ」ルシヤル」タル汝ハ法律ニ定メタル公告ヲ為シ且ツ時ト場所トニ於テ公賣ノ法式ニ從ヒ該船舶船具等ヲ賣却スヘキ旨ヲ更ニ命スルモノナリ而メ右公賣代價ハ一千八百四十九年七月第一ノ火曜日ヲ

以テ新約克府廳内ニ設置シタル訟裁判所ニ差出シ而メ之ヲ訟廳ノ書記ニ納付シ併セテ此令状ヲ返付スヘキモノナリ

紀元一千八百四十九年即チ我カ獨立第七十三年六月二十四日新約克府ニ於テ設置シタル新約克南部地方郡裁判所判事「サミユールアル、ヘッツ」茲ニ之ヲ証スルモノナリ

書記

ゼームス、ダブリウ、ソットカルフ

代言人

シー、エル、ベ子ヂクト

「マルシヤル」ハ左ノ如ク復命スヘキモノトス

司法省

前上ノ訓令ニ従ヒ余ハ該船舶船具及ヒ什器ヲ賣却シ而メ其代金即チ一万三千百弗ハ前上ノ命令ニ依リ当裁判所ノ書記ニ納付セリ

一千八百四十九年七月十五日

合衆國「マルシヤル」

ヘヌリー、エフ、トールマッヂ

○凡ソ「マルシヤル」ハ仮令ヒ判決ニ従フト雖ヒ訟訟関係者ニ對シ金額又ハ其一部ヲ分配スルヿヲ得サルハ頗ル允当ナリトス蓋シ該官ノ職務ハ令状ニ従ヒ単ニ物件ヲ公賣シ而メ其公賣代價ヲ裁判所ニ納付スルニ止リ其公賣費用ノ外決シテ其代價中ヨリ支出スルヿヲ得サルモノト

ス

海上令状ニ関シテハ往々物議ヲ来タシ為メニ裁判所官吏ヲシテ之ニ干渉セシムルハ頗ル不当トスルニ至レリ故ニ裁判所ニ於テハ到底之ヲ改良セサルヘカラサル機運ニ向ヘリ

又法律上物件ヲ管守シタル場合即チ埠頭税庫敷及ヒ労力等ノ如キ事項ニ依リ賣却物件ニ差押権ノ属スヘキ場合ハ往々実際ニ見ル所ナリ此等ノ場合ニ当テ「マルシヤル」ハ裁判所ノ命令アルニアラサレハ之ヲ償還スヘキ権ナシトス但シ賣却ノ已前既ニ成立シタル差押権ニアラサレハ「マルシヤル」ニ於テ其義務ヲ尽サシムルノ権ナカルヘシ

○凡ソ裁判所ノ書記局ニ於テ管守スヘキ為メ書記ニ納付スヘキ諸般ノ金額ハ総テ裁判所ノ名ヲ以テ直チニ其指命シタル銀行ニ預ケサルヘカラス而メ其計算ハ常ニ其銀行ニ任セ置キ裁判所ノ判事及ヒ書記ノ記名シタル切手ニシテ且ツ何人ノ計算何人ノ使用及ヒ何ナル訴訟及ヒ何ナル資本ヨリ支出スヘキモノタル所以ヲ明記シタルモノヲ以テスルニアラサレハ其金額ヲ支出セサルモノトス（海上裁判所規則第四十二条ヲ参照スヘシ）

此ノ如クシテ引出シタル諸般ノ切手ノ草稿及ヒ謄本及ヒ其日附ヲ記載シタル公正ノ簿冊ハ書記之ヲ保全シ而メ毎期書記局ニ現在スル金

額ヲ詳細ニ裁判所ニ報告スヘキ任アリトス

公賣代價ヲ書記局ニ納付シタル後ニ至リ其金額ヲ分配スル事ニ就テハ動モスレハ至難ノ争論ヲ生スルヿアリ何トナレハ海上裁判所ニ於テハ時状ニ依テハ分配ノ原則ヲ変更スレハナリ即チ或ル場合ニ於テハ訴訟ヲ提起シタル順序ニ從ヒ又或ル時ハ差押権ヲ成立シタル順序ニ從ヒ又或ハ此順序ニ依ラスシテ平当ニ分配スルヿアルヘシ

元来公賣代價ヲ分配處理スルノ順序ハ正当ノ権力ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ定ムルヲ常トス然レトモ時トシテ之ヲ書記ニ一任シ之ヲシテ請求ノ順序及ヒ特権ノ如何ヲ報告セシムルヿアルヘシ

同等ノ権力ヲ有スル者ニ在テハ最初ニ訴訟ヲ起シタル者第一ニ分配ヲ得ヘキノ権アリ又初メニ物件ヲ差押ヘタル者ハ他ニ特権アル者ナキ中ハ第一ニ分配ヲ受ルノ権アリトス

又巨額ノ債主ハ少額ノ債主ヨリ先取権アルモノトス

以上ノ場合ニ於テハ書記関係者ヲ訊問シ而メ其報告書ヲ作ルヘシ若シ此報告書ニ對シ不服ヲ抱クヿハ他ノ報告書ニ對スルト同一ノ方法ニ依リ故障ヲ為スヿヲ得ヘシ此場合ニ於テハ亦論及ヒ完全タル判決ヲ請ハンカ為メ之ヲ裁判所ニ提出スヘキモノトス

○書記局ニ預ケ金ノ事

○何人ヲ問ハス裁判所書記局ニ預ケタル金額ニ関係ヲ有スル者ハ願書及ヒ簡易手続ニ依リ判決ノ如何ニ拘ハラス其金額ヲ已レニ引渡サンヿヲ求ムルヿヲ得ヘシ此場合ニ当リ裁判所ハ一方ノ者ヘ通知ノ上簡易法ニ依リ審訊ヲ遂ケ而メ法律及ヒ条理ニ従ヒ判決ヲ为スヘシ若シ一方ノ者ニ於テ其請求ヲ为サス或ハ之ヲ抛棄シタルトキハ裁判所ハ其者ニ對シ費用ノ判決ヲ下スヿヲ得ヘシ

○残額ノ事

○凡ソ物権ノ訴訟ニ於テ物件ノ公賣ヲ行ヒ而メ原告人ノ請求ヲ尽シタル後ニ至リ全ク使用ヲ要セサル金額ヲ裁判所ニ於テ残スヿアリ之ヲ称シテ残額ト云フ

此場合ニ当テ其残額ノ全部又ハ一部ニ就キ権利アル者ハ裁判所ニ出願ノ上之ヲ領收スルヿヲ得ヘシ

凡ソ差押権ノ属シタル物件ノ代價ハ仮令ヒ何人ノ手ニアルモ尚ホ其権ハ消滅セサルモノトス故ニ裁判所ノ判決ニ依テ正当ニ物件ヲ公賣シタルトキハ全世界ニ對シ善良ナル所有権ヲ示スニ足レリト雖モ其代價ニ至テハ往々未タ曾テ出訴セサル請求ヲ受クルヿアルヲ免レス故ニ裁判所ニ於テハ請願ニ依リテハ前上ノ残額ニ對シ関係アル者ノ権利如何ヲ判決スルヿア